

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
四 国 中 央 市	1	8	長須の軀祇園祭り 広島県沼名前神社	長須地区は小村ながら、近世期には廻船業が盛んであった。周辺の商人や船稼業者は対岸の広島県沼名前神社への信仰を篤くし、長須の軀祇園祭りとして神社へ参詣した。現地には江戸期の当地ゆかりの玉垣も残っており、往時をしのばせている。	D
	1	19	角力甚句 二名地区	江戸で大関にまでなったとされる太秦(佐藤富蔵)が、江戸時代の文政年間頃帰郷し、角力甚句を伝えたとされる。以後、二名地区の盆踊りには踊りにそえて唄われた。特に戦前生まれの人々の記憶に刻まれる。	D
	2	2	川之江八幡神社の 秋季祭礼 10月15日 川之江八幡神社 中所獅子舞保存会	川之江八幡神社の秋季例祭では獅子舞踊りが奉納される。長須村の庄屋石川家の分家で東八家という家があったが、この家の子どもが病弱であったため、祈願のため川之江八幡神社に芸能の奉納を思い立ち、同村中所の角石菊次という人物に依頼した。この人物は讃岐三野郡庄内村生里から養子に入った者で、郷里の獅子舞に趣向を加え独特の獅子舞にして中所の若者に教授、明治初年(1868)以来、東八奉納獅子として神社に奉納されるようになった。現在も中所地区の住民によって傳承され、祭礼の当日には参拝者に披露されている。(市)〔詳細調査報告5参照〕	A
	3	16	雨乞い踊り 9月下旬～10月上旬 金生第二小学校	早が続き村内の池の水が枯れかけると、村人たちが表、切山の2カ所の竜王宮に祈願し、降雨を願い踊った。太鼓に合わせて踊り手20名ほどが扇子と花笠を身につけて踊る。現在は金生第二小学校の児童たちが運動会にあわせて実施している。	B
	3	6	切山五土先祖祭り 金生町山田井切山地区	切山地区は市内の最東端に位置する山間集落であり、平家の落人伝説を有する場所である。伝承では安徳天皇に付き従ったという田邊、真鍋、參鍋、間部、伊藤の五土を祖先とする家々が中心となり、昭和52年(1977)に平家遺跡保存会が組織されている。地神宮と五土の神社があり、各氏ごとに先祖祭りが行われている。以前は神主が来ていたが、現在は氏族のみで執り行い、終了後は直会を行う。	B
	4	8	大般若さん 妻鳥町一円 7月初めの日曜日他	五穀豊穡、家内、部落の安寧を祈願する。大般若経が納められた箱を担ぎ、地区内を廻り、住民がその箱の下をくぐり祈願することで、利益を得ようとするものである。祈願後はお守り札を受け取り、家々の柱や鴨居等に貼り、魔除けとする。妻鳥町のうち、6地区(土居、中上、中下、綿市、松木)で行われている。	A
	5	23	大西神社奉納踊り 5月4日～5日 大西神社 大西神社奉納踊り保存会	大西神社の春の祭礼で行われる踊りを奉納する神事。轟城城主であった大西備中守元武・小次郎親子の霊を慰めるために始まったものと伝わる。踊りには大踊り、小踊り、笹踊りの3種があり、大踊りと小踊りは約300年、笹踊りは約200年程踊り継がれてきた。大正時代の初め頃までは奉納が続けられていたが、その後断絶。昭和54年(1979)に青年団によって一時復活された。現在は、地区の小学生が中心となり、小踊りと笹踊りを奉納している。(市)	B
	6	3	上分神社の秋祭り 10月13日～15日 上分神社参道	上分地区の秋季例大祭の時に上分神社に向かう参道に1対の棒を立て、その間に5つの提灯を掲げる。市内西部地域では、「ごしんとう」等と称している。旧村落単位(枝郷は枝郷で)を基本とし、1か所に設置するのではなく、域内の往還路で村の集落(家々)がある端辺り及び中央辺りに複数設置することが多い。秋の例祭の前日や直近の休日に御神燈近隣の住民が設置し、祭りの翌日には撤去している。	A
	7	8	不動山のお祭り 5月5日 不動山境内	石川地区にある不動山の中腹に祀ったお不動さんの祭り。堂内及び奥の院での加持や餅まきを実施する。往時は何百人もが訪れる盛大な祭りであった。	D
	7	8	椿堂(常福寺)のお礼踊り 8月23日または24日 椿堂(常福寺)境内	弘法大師が疫病を地中に封じ込め、そこから芽生えた椿の木の伝承に由来する。踊り手は浴衣をまとい、頭には椿の絵が入った手拭いをかぶり、その上から笠を着用する。大正初期に中断、昭和45年(1970)に一時復活した。近年は主な担い手である青年団がなくなったことにより、厳しい状態となっている。	D
8	2	三島神社秋季大祭 10月21日～23日 三島神社及び周辺地域 御座船明神丸保存会	御座船と呼ばれる船形の屋台が出る。神前において御輿に御霊を入れた後、次に御座船の船玉さんと呼ばれる船内の本殿的な場所に御霊を入れる。神輿を先頭に御座船が続き、各番号が決められた各地域の太鼓台の順で市中を練り歩く。御座船を運行する際には御座船御歌が歌われる。(市)	A	
8	8	庚申講 庚申の日(庚申の日の前夜) 庚申堂	江戸中期頃、疫病が流行した際に、悪病退散を祈願して始められた行事とされ、家内安全や無病息災が祈願される。以前は高齢者や地区の役員らが担ってきたが、現在は地元青年団が担い手となり継続して実施されている。	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
四 国 中 央 市	8	16	お峯祭り 7月15日 (旧6月14日～16日) 水波大権現	法皇山脈の中央部に位置する翠波峰で雨乞い踊りが行われる。この踊りは、水波念仏踊り、なっばいどうや等とも称される。軒提灯を吊り、のほりを立てて祭礼を行い、14日当日は夕方から水波峰に登って夜を徹して踊った。神社で踊りを奉納した後は、中之庄町内各所を巡回し、頭屋で踊り納めをした。踊り手は波模様に入った揃いの法被をまとい、草履を履き、笠や手ぬぐいなどを身に付ける。締め太鼓3～4人、鉦8～10人、洪団扇3～4人で構成され、洪団扇及び締め太鼓の者で円をつくり、反時計回りに跳ねるように踊る。鉦はその円を囲むようにして囃子を奏でる。(市)	D
	9	6	棕堂八幡まつり 旧暦9月14日 棕堂八幡	松柏地区赤之井に棕堂八幡と呼ばれる祠があり、周辺福田姓の先祖供養が行われる。近隣では少数の源氏方に由来する伝承に基づいている。平家の落人が再び旗揚げするのを防ぐために派遣されたという源氏方の武将福田甲斐守が祖とされている。夜、鎮魂のために焚火をしながら太鼓を打ち鳴らす。幕末から明治の始め、村上姓も加わるようになる。寿司やおにぎり、酒により直会を行い、先祖供養を行う。当屋制により運営されている。	B
	10	2	寒川石戸八幡神社の練り 10月20日～22日 石戸八幡神社及び周辺地域 八幡丸運営委員会	石戸八幡神社の秋季祭礼には、太鼓台の他、船形屋台である八幡丸が繰り出される。先頭を進むのが八幡丸であり、運行時に唄われるのが八幡丸舟唄である。多数の担ぎ手(歌い手)を従え、囃子は太鼓一に船頭役が1名付く。舟唄の伝承は地元寒川小学校でも学校行事として取り入れられる等、継承が図られている。	A
	11	19	さんまのぞう 8月15日～16日 実相寺境内	豊岡町大町高野・中通り地区の住民が行う盆行事。踊り手は多数で、お囃子に太鼓1、歌い手が1名付く。浴衣姿に烏道笠、麻裏草履を履く。縁台に太鼓を据え、その回りに円陣となって、ゆるやかに踊る。	D
	11	16	豊受神社風穴祭 (豊受祭) 旧6月13日 ・旧9月13日 豊受神社・豊受山	年2回、四国中央市豊岡町大町の中通、高野、恵之久保、天関・高塚、西村、宮日の6集落が輪番で担当。氏子15～20名ほどが豊受山山頂付近にある豊受神社までお供えを運び、やまじ風が吹き出すといわれる岩穴(風穴)に団子を投げ込んで風の神を慰める。20年に一度、社殿の向きを変える「式年遷宮」が行われる。(市)〔詳細調査報告28参照〕	A
	12	23	平家踊り 8月15日	先祖供養を中心に、鎮魂慰霊の踊りとして行われてきた踊り。歌詞は住民がそれぞれに口伝してきたものであり、源氏にまつわる歌詞もある。浴衣姿で2本の扇子を持ち、円陣となって踊られる。	C
	13	8	数珠回し (夏祈禱・百万遍) 6月16日 阿弥陀堂	城師地区では、夏祭りに阿弥陀堂に参集し、1080顆の大数珠を阿弥陀の名号百万遍念仏「なんまえだぶつなんまいだあ」と唱えながら、参加者が円をつくり100回繰り回す仏事を行っていた。巫女姿の踊り手1名が御幣のついた榊を持ち輪に入り、締め太鼓数個とすり鉦が1つ用いられた。同時に仏道の庭では、盆踊り行事も行われた。使用した榊の小枝は分けて各家々に持ち帰り、軒や畑に立てて虫除け、悪除けとした。	D
	14	8	数珠練り・数珠回し 土用の入り 延命地藏堂	家内安全や虫除け、五穀豊穡を祈願する。祭壇に榊、団子等を供え、僧侶の読経のあと、堂前の広場にむしろを敷いて参加者が円陣となり、鉦と太鼓で拍子を取りながら長さ約12mの桐製の大数珠を「ナンマイダー・ブツナンマイダー」と唱えながら練っていく。2時間ほど行い、供物の団子や榊は各自が持ち帰り、神棚に祀る。行事の前日には「てんのうさん」(新宮鉦山跡に隣接する社)の清掃が行われる。	B
	14	25	弓放し 旧3月3日 三島神社境内地跡	部落内10戸の旧氏子の中から輪番で当屋を決め、一切の世話をし、上組と下組の順で13間(約24m)先にある1尺3寸(約40cm)の的を射る。正式の神事後は、景品をかけた競技も行われた。氏子内に不幸事があれば、ブクがかかると言われ、時期を大幅にずらした。	D
	15	6・29	お大師講 毎月20日 当番の家	当番の家に戸主が集まり、弘法大師や四国八十八箇所の掛け軸をかけ、経を唱えた。久保ヶ内集落は新暦、杉谷地区は旧暦で行われてきた。	D
15	8	くじびき 8月24日 杉谷地藏堂	毎年輪番で決められた2戸の頭屋が一切の世話をし、3日ほど前から寄付金を集め、供物とともに景品を買い入れる。紙のコヨリ製のくじで、これに景品の名を書き入れておき、当日の夕方、下校時の生徒や地域の人たちが堂前でくじびきを行った。地区の数珠送り行事と併せて行われていたもので、数珠送りだけは継続して行われている。	D	
15	23	鐘踊り 8月最終日曜(八朔の日) 大西神社 鐘踊り保存会	大西神社の祭礼で奉納される念仏踊り。天正5年(1577)、土佐の長宗我部元親と戦って自刃したこの地域の領主・大西備中守元武の霊を慰めるための踊りであり、大西神社の前庭に、しめ縄をめぐらして踊る。太鼓2人、鉦10人、なぎなた4人、はつり4人、面1人、棒振り1人の総勢22名からなる。親太鼓、子太鼓がそれぞれ1名。鉦は大関1名、小関1名、関脇2名、ふくろと呼ばれる6名の合計10名である。面は露払いであるが、踊り唯一の道化者として猿田彦をかたどっている。時代考証の上装飾されたそれぞれの衣装や、終馬後は飾りを家々に持ち帰り魔よけに使う等、独自の風習も数多い。踊り一庭に約40分を要し、現在は三庭あるが、昔は三十三庭を夜を徹して踊っていた。(県)	A	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
四国中央市	15	2	素鷲神社の神楽・屋台 10月最終日曜 (10月21日) 素鷲神社	素鷲神社の秋の祭礼として行われる神事。烏帽子姿の7人の男児が船形の屋台に乗り込み笛、鼓、小胴、大胴の太鼓と鉦で神楽を奏で、白装束の若衆が屋台を荒々しく揺り動かし伊勢音頭風の唄を唄う。屋台は神輿の練りに随行する。(市)	B
	16	18・31	鍬初め 12月31日～1月2日 個人宅	その年の豊作を祈って、初めて田を耕す行事。12月31日に鍬初めて使うものをお祀りし、1月1日に拝む。1月2日の早朝、畑に田のもの(芋など)や海のもの(煮干し)、お神酒を持っていく。その年の干支の方角に向かって円形に田に鍬を入れ、ススキや三角の半紙を棒に挟み家族全員で立て、お神酒をふりかける。家長が拝むのを家族が周りで見守る。田のもの、海のもののお供えはその日のうちに下げて神様に祀り、煮干しはその日のうちに家族で食べる。	D
	16	2	千足神社秋季例大祭 10月13日～15日 千足神社	その年の五穀豊穡を感謝して行う行事。13日早朝に上野地域の4台の太鼓台が千足神社に集合し、例大祭の無事を祈って神事を行う(宮出し)。20年程前までは、13日夜にその年に生まれた新生児を神様にお披露目する「氏見せ」があったが、人口減少により現在はしなくなった。14日～15日は各地区を太鼓台が巡行し、15日は神輿が上野地域の御旅所を巡行して神事を行い、もしその地域に新生児がいればその際に「氏見せ」をする。巡行を終え、神輿が千足神社に帰り、太鼓台も各地区へ帰ったら秋祭りが終わる。	B
	17	19・23	畑野の薦田踊り 8月16日 畑野薦田神社	畑野地区の薦田神社で、天正の陣で討ち死にした薦田備中守義定の霊を慰めるため奉納される太鼓踊り。踊りを絶やすと不吉なことがあるとされ、奉納が続けられている。踊りは、囃子手の小学生が内側、成人男性がその円陣を取り囲み唄を唄う二重輪踊りである。原則として、男子の小学3・4年生が鉦、5・6年生が太鼓を担当するが、子どもの減少により女子を加えるも、その担い手確保が喫緊の課題となっている。(県)	A
	18	16	藤原部落の盆行事 8月16日 大宝寺境内	大宝寺境内において、念仏踊りが行われる。中央には12本の棒を立て、12灯の提灯を吊り、その周りを踊り手たちは踊る。往時は各人様々な仮装を行うなど、地域の祭りにみられるいわゆる無礼講的場ともなっていたようだが、当時の唄を伝承する者がなく、現代調盆踊り唄により行事自体は継続されている。	B
	19	1・18	とんど(とんど焼き) 1月第2日曜 千々の木川河口の 西側の海岸	下天満地区の子どもたちや愛護班のメンバーが、地区内の全戸を回ってしめ縄などのお正月飾りを回収し、竹で組んだ舟に積み込んで地域の海岸で燃やす行事。当日9時頃～12時にかけて各家を回ってお正月飾りなどを回収し、西の町集会所で舟を組み、夕方になったら軽トラに乗せて海岸まで移動させる。到着後は波打ち際までみんなで担いで移動させ、燃やす。なお、年末の12月30日には愛護班のメンバーらで近くの山に登り、しめ縄用のシダを採って全戸に配ることが恒例となっている。子どもたちが山にシダを採りに行くとき、シダを配りに行くとき、お正月飾りを回収するときなどに、地区の人からお金を貰う。	A
	19	18	お日待ち 1月 集会所	地区の安全や五穀成就などを祈念して集会所で行う。一日の始まりとされた夕刻に人々が集い、神饌をお供えて祭礼を行い、会食(直会)をするなどして日の神様に感謝する。当日は集会所玄関に2本の竹を立て、縄を張って紙垂を取り付ける。また、地区境の4箇所に「組内安全」「風雨順時」「五穀成就」と書いたお札を竹に挟んで立てる。	A
	19	18	七日祭 1月7日 八雲神社	主に厄払いを目的とした行事。八雲神社の氏子でその年に厄年を迎える人や還暦・喜寿・古稀などを迎える人、また地区の総代などが集まり祭礼を行う。その後には餅投げをする。八雲神社は以前は「牛頭天王宮」といい、悪病除けや牛馬の守護神として祀られ、正月7日までに参詣すればその年の家内の悪病が除かれるといわれてきた。以前は七日祭の際に牛や馬を連れてくる人もいた。また餅投げの景品に牛が用意されていたこともあったらしい。	A
	19	32	社日 (地神はん・地神さん) 春分・秋分に最も近い戌の日 千々の木川土手にある 2基の自然石	四国中央市土居町天満大西山田地区の農家(10名程度)が集まって年2回春・秋に行う、土地の神様を祀るための行事。社日当日は農作業を休み、地区の担当者が千々木川土手にある2基の自然石の広場に幟を立て、石のしめ縄を新調し、食べ物や酒を供える。八雲神社の宮司が祭礼を行い、その年の五穀豊穡を祈念する。社日の準備等は3軒1組の輪番制で担当し、台帳管理も任されている。以前(1990年頃)は現在地から北東に100m程離れた雑木林のあたりに社日の石が置かれていたが、川の改修のために現在地に移動したという。	A
	19	8	大地神社春祭り 4月10日に一番近い日曜 (4月10日) 大地神社	下天満地区の天満神社の氏子が、天満神社の境内社である大地神社にて地区内の安全と繁栄、豊作と大漁を祈願して行う地域行事。大地神社で祝詞をあげた後、子どもたちが子ども用の神輿を担ぎ、地区内を巡行する。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
四 国 中 央 市	19	10	子供相撲(春玉神社例祭) 4月10日に近い日曜 (4月10日) 八雲神社	上天満地区の氏子の子どもが上天満地区の安全を祈願して八雲神社境内にある春玉神例大祭の際に奉納相撲をする。その後の神事の際には子どもの中から代表で一人、玉串を受ける。	D
	19	2	八雲神社秋季例大祭 10月13日～15日 八雲神社 天皇丸船唄保存会	その年の五穀豊穡を感謝して行う行事。13日は氏子参りで、氏子が金銭や30kgの米の袋を八雲神社の神に供える。祭りの3日間には太鼓台2台が地区内を巡行し、15日には神輿が出て、両者が揃って八雲神社へ集合して神事を行う。神事の最後には「奉納・八雲神社舟節」の9節の内「初春」「そも燈台」「目出度」の3節が奉納される。この船唄は、もともとは「天皇丸」という船が八雲神社御神体を載せて、その他みこしなどの行列を先導して各御旅所を回るなかで唄われた。現在の船唄の歌詞は、大正初期に地域の方が当時の老人たちが唄うのを聞き覚えて筆録したものを、昭和30年代に当時愛媛大学教授だった和田茂樹氏が監修・補筆したものである。	B
	20	エ	お涅槃 3月(旧2/15)	釈迦の入滅日に行われる法要で、市内で区分けされ、旧土居町などの西部域でいえば域内6カ寺が順番に当番寺院を務める。また、死者が出た家には3年間、お涅槃(常楽会)の案内が届き、当屋の人は法要に参加している。	B
	20	8	楠宮春祭り 3月 一宮神社	厄落としの神事を行った後、くみ上げたやぐらの上から、厄年の人々が餅を投げることで、厄落としを行う。餅は部落の婦人会が炊き出しを行うが、コロナ禍になってからは、業者から購入した餅を厄年の人々に配付するに留め、餅投げは中止となっている。	B
	20	8	子供神輿 5月5日 土居町津根 八日市集落内	小学生高学年を中心とした子どもによる神輿運行が行われる。神輿は一宮神社のもので、往時は担いでいたが、現在はリヤカーに神輿を載せて部落内を運行する。神輿は各家々の庭先まで入り、当屋の人はそれに対して御花(現金)をお供えする。現在ではその一部が子どもたちにも対価として支払われている。半世紀以上前は、青年が神社に泊まる行事もあった。	B
	20	33	盆棚 8月13日～15日 庭先	庭先に杭状のものを突き刺し、三宝の上部分の様な皿状のものが乗る。そこには、お水・ハナシバ・お迎え団子が祀られる。新盆がある家にはお寺から経の書かれた紙が配付されるので、盆棚の前面に貼り付けるとともに、竹笹も設置することで、新仏が迷わず自宅へ戻れるように祈る。毎年棚は設置するが、紙や竹笹は新盆のある年に限られる。通常は多くの無縁仏や御霊が迷うことの無いよう祈願してのものという。「みずだな」とも称される。盆時期には、毎年仏壇に団子と素麺を祀り、来客には素麺をふるまう。	A
	20	8	下野田地蔵踊り 8月23日 下野田地蔵堂	地藏堂本尊である御地藏様を抱えて踊る奉納踊り。現在は、やぐらを組んだ太鼓を中心に踊り手が円陣となって踊る。中断していたものの、昭和50年(1975)に復活、再度中断を経て、平成8年(1996)に再復活した。	B
	20	16	野田の雨乞い 日照りのとき	日照りが起こると行われる雨乞い行事。上方の山伏が野田村を訪れ伝授したといい、歌詞は、三草、高砂、小笹、緑の深さ、青柳、御庭等からなる。	B
	20	2	八幡神社秋季祭礼 10月13日～15日	上市集落からは、船形屋台(太鼓)である八幡丸が繰り出され、締め太鼓に合わせ担き夫たちが船唄を唄いながら練り歩く。市内には複数の船形屋台があるが、旧土居町内では唯一唄と屋台の運行がセットで伝承されている。(市)	B
	20	10	明神さんの相撲 11月(11月亥の日) 諏訪明神	土居町津根にある八日市において、11月に行われる子供相撲。八日市は、東分・西分・水屋と3つの小部落に別れるが、東分・西分の小学生が参加する。行事自体を取り仕切るのは諏訪明神のある東分である。諏訪明神社での神事後、境内地にある土俵で子どもたちが繰り返し相撲をとる。勝ち負けにより差はあるが、相撲をとった子どもたちには賞金が出される。	A
	20	16	かざかみさん(風神様) 祠	やまじ風は四国中央市に人が住み始めて以来、常に共存を図ってきた自然の神のもたらす災害であり脅威であったことから、人々は常に風の神への祈りを絶やすことはなかった。土居町には、風の神を祀る祠が田畑の間の畦道等に見られ、小林地区には風留という地名もあり風留神社という祠が祀られている。いずれの場所も、往時は幟を立てたり祭礼日等もあったそうだが、今現在は謂れを知る人も少なくなっている。地域清掃等で維持管理には努められており、生活とともにやまじ風があることを伝えている。	B
20	28	巳正月 12月最初の辰の日	最初の12月辰の日(辰と巳の日の間とも)に行われる死者の為の正月で、通常の正月と違う行事を行う。吉祥植物であるウラボシを逆に取り付けたしめ縄を、仏壇と墓石へ結わえる。この際、通常は燈もセットとなるが、巳正月には付けない。また、墓所へ向向き、あつらえた法具(餅を焼くためのもの、木や藁でつくったもの。時期には販売している昔ながらの雑貨店もある)で餅を焼き、刃物で突き刺し、後ろの人に背中越しにそれを手渡す。焼いた餅は墓所で完食してくるのがならいである。	A	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
新居浜市	21	2	新居浜太鼓祭り (川西地区) 10月16日～18日 (10月17日～19日) 一宮神社、新居浜市街	もともとは一宮神社の祭礼であったが、昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。10月16日は川西地区太鼓台が各小学校でのおまつり集会の後、自由運行。夜太鼓。17日は太鼓台が地区回り巡行。一宮神社参りから帰落昼食。午後地区回り工場前から夕方帰落。18日は大江浜から中須賀へ。帰落昼食。午後、登道から一宮神社宮入り。夕方帰落。隔年で船御幸。太鼓台の順番は船御幸の年は西方が先頭。陸御幸の年は東方が先頭。神事は一宮神社の御神輿とお道具が巡行するが太鼓台とはコースが異なる。堀江神社、宗像神社も別に神事を行う。(平成14年に新設された宗像神社氏子の東雲太鼓台は川東西部地区で運行される。)現在の太鼓台は13台。〔詳細調査報告6参照〕	B
	22	23	奉納供養祭 7月17日 慈眼寺	とんかかさん踊りを奉納する。とんかかさん踊りは今から446年前、豊臣秀吉の天下取りの一步として四国攻めをした折に、郷土を守るべく奮戦し命を落とした武将たちの魂を鎮める弔いの舞で、東予地区の総大将として、奮戦した金子備後守を始め郷土軍が全滅した7月17日を供養の日と決め、金子備後守の菩提寺である慈眼寺で毎年開催している。奉納供養祭終了後は武者像前にて読経並びに参拝を行う。	A
	23・29	2	新居浜太鼓祭り (川東西部地区) 10月16日～18日、 (10月13日～15日) 国領川河川敷、 多喜浜駅前、八幡神社	もともとは八幡神社の祭礼であったが、明治末期の悪風改善運動で川東の祭りとして統合された。昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。平成3年、川東地区と分離する。10月16日八幡神社奉納神事、氏参り。川東西部地区太鼓台8台は4台ずつ分かれて神社に入る。終了後、各小学校おまつり集会に太鼓台が参加。17日は午前、労災病院前パレードから国領川河川敷公園かきくらべ統一行動。午後の巡行後、夕刻多喜浜駅前かきくらべ。夜太鼓。18日午前、各地区自由行動。午後八幡神社宮入り合同行事かきくらべ。合同行事は川東地区といっしょに17台で行う。(平成14年に新設された東雲太鼓台は宗像神社氏子だが川東西部地区で運行される。)[詳細調査報告6参照]	B
	23	1・18	とうど祭り 1月8日または1月9日 宇高地区・沢津地区	宇高地区は8日、沢津地区は9日に行われる。集落の注連縄などを集めて田んぼで焼く。	A
	24	2	新居浜太鼓祭り (泉川地区) 10月16日～18日 (10月21日～23日) 浦渡神社、東台神社、 山根グラウンド	もともとは神社ごとの祭礼であったが、明治末期の悪風改善運動で東新(上部)の祭りとして統合された。昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。太鼓台は昭和40年代までに次々と廃れた。東台神社では戦前まで相撲大会があった。平成に入り、太鼓台の復活、新設が続いた。10月16日には東台神社、浦渡神社で朝から宮出しが行われる。泉川小学校でおまつり集会。夜は泉川・船木地区の夜太鼓(9台)。17日には山根グラウンドに昭和51年から上部地区の太鼓台が集まり、かき比べをするようになった(20台)。夜は角野・泉川夜太鼓(8台)。18日は午後から泉川小学校で泉川地区統一寄せ。夕方、浦渡神社、東台神社での宮入りがある。秋祭りには鬼が出ていた。〔詳細調査報告6参照〕	B
	25	2	新居浜太鼓祭り (船木地区) 10月16日～18日 (10月21日～23日) 船木神社、三島神社	もともとは各神社ごとの祭礼であったが、明治末期の悪風改善運動で東新(上部)の祭りとして統合された。昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。10月16日は三島神社(1台)、船木神社(4台)への氏参り。船木小学校でおまつり集会。泉川・船木地区の夜太鼓(9台)。17日午後には山根グラウンドに昭和51年から上部地区の太鼓台が集まり、かき比べをするようになった(20台)。夜は池田池で夜太鼓(5台)。18日は船木小学校での船木地区太鼓台のかき比べ(5台)、三島神社、船木神社での宮入りがある。〔詳細調査報告6参照〕	B
25	16	船木の雨乞い行事 旧6月1日 船木地区	船木地区にて有志が旧の6月1日に雨乞いを目的として、かぶと踊りを行う。基本、太鼓の音のみで踊るものであり、途中で掛声が入る。踊り手の相歌や掛け声は「カッカラ(空気が乾燥した天気)、マッカ(仏語の魔訶)、シイシイ(追い払う言葉)、ドンドロ(雷の方言)、ドンドン(雷光)等であり、踊り全体の意味としては、「長照りの天気よ去れ 向こうへ行け お願いよ 雨神の雷様 どんどん雨を降らせておくれ」である。踊りの配置は、太鼓を中心として、踊り手が円形で反時計回りで回りながら、田植えから収穫までを表現するものである。(市)	E	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
新居浜市	26	2	新居浜太鼓祭り (中萩地区) 10月16日～18日 (10月14日～16日) 白山神社、滝神社、 萩岡神社、山根グラウンド	昭和40年まで中萩地区10月14日～16日と各地区祭礼日が異なっていたものを、昭和41年10月16、17、18日に市内統一した。10月16日は萩岡神社へ早朝より4台の太鼓台、白山神社にも3台の太鼓台を昇き上げ。昼間は中萩きらきら公園で太鼓寄せ。夜、大生院・中萩地区の夜太鼓。17日は中萩中学校へ輪番で3台ずつ太鼓台が行きお祭り集会。午後は山根グラウンドに昭和51年から上部地区の太鼓台が集まり、かき比べをするようになった(20台)。夜は中萩地区夜太鼓。18日は朝から中萩小学校で中萩地区統一かきくらべ。午後、角野・中萩(白山)地区かきくらべ。夕方萩岡神社に4台、白山神社3台の太鼓台が集まり神輿の宮入りを見送る。秋祭りには鬼が出ていた。〔詳細調査報告6参照〕	B
	27	2	新居浜太鼓祭り (大生院地区) 10月15日～17日 (10月23日～24日) 飯積神社・渦井川原	西条市の飯積神社祭礼に、飯岡地区3台、玉津地区4台(西条市)、大生院地区4台(新居浜市)の太鼓台が出る。神社は西条市、推進委員会は新居浜市という複雑な関係。10月15日は太鼓台地区内運行、夕刻より渦井川広場太鼓寄せ。16日、中萩きらきら公園太鼓寄せ、夜は大生院・中萩地区の夜太鼓(11台)。17日は飯積神社の祭礼で西条市飯岡、玉津地区の太鼓台と11台で一日巡行。早朝4時より宮出し、船屋グラウンド、室川、八幡神社、渦井川、飯積神社宮入りまで太鼓台が巡行し、それぞれ見せ場(川原など)でかきくらべを行う。「寄せ昇き」は古くから飯積神社の伝統的な昇き方である。〔詳細調査報告6参照〕	B
	28	2	新居浜太鼓祭り (角野地区) 10月16日～18日 (10月21日～23日) 内宮神社、山根グラウンド	もともとは神社ごとの祭礼であったが、明治末期の悪風改善運動で東新(上部)の祭りとして統合された。昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。10月16日早朝の氏参りには太鼓台が内宮神社の階段を昇き上げる。角野小学校でおまつり集会。17日には山根グラウンドに昭和51年から上部地区の太鼓台が集まり、かき比べをするようになった(20台)。夜は角野・泉川で夜太鼓(8台)。18日は角野・中萩(白山)とのかきくらべ(7台)。内宮神社の宮入りでは神輿の後について太鼓台が石段を上がり、お見送りする。秋祭りには鬼が出ていた。西蓮寺からは獅子舞が奉納される。〔詳細調査報告6参照〕	B
	29・30	2	新居浜太鼓祭り (川東地区) 10月16日～18日 (10月13日～15日) 国領川河川敷、 多喜浜駅前、八幡神社	もともとは各神社ごとの祭礼であったが、明治末期の悪風改善運動で川東の祭りとして統合された。昭和41年新居浜太鼓祭りとして市内統一。10月16日は早朝、清住神社祭。池王神社、湊塩竈神社にも太鼓台が集まる。川東地区の各小学校おまつり集会に太鼓台が参加。地区内自由行動。夕方から9台で天神浜通りかきくらべ、多喜浜4台と神郷5台に分かれて夜太鼓。17日午前、労災病院前パレードから国領川河川敷かきくらべ統一行動。午後の巡行後、夕刻多喜浜駅前かきくらべ。夜、大足智姫神社祭神事。18日は9台で多喜浜新田出発、午前中地区回りと、昼食後山端水門集合、夕方から八幡神社宮入り合同行事。終了後氏神各神社にお参りする。夜太鼓。合同行事は川東西部地区といっしょに17台で行う。〔詳細調査報告6参照〕	B
	30	19	黒島百八踊り 8月15日～16日 黒島	毎年、8月15日～16日の盆踊りの日に開催される精霊供養。黒島の名所づくしや、阿波鳴門巡礼物語などに題をとった「口説き(くどき)」と、「トーン、トーン、トントトン」の太鼓のリズムと「ヤイトセー、ソレサー」のお囃子に合わせて輪になって踊る。その年新盆を迎えた家族は白装束姿で背中に位牌をかつき、親族は手に火のついた線香を持ち、一心不乱に礼を慰めようとやぐらの周辺をまわり踊る。手にした線香が燃えつきる前に踊りを終了、そのまま近くの明正寺のむかい、薬師堂へ線香を手向け精霊供養をする。	A
	31	1・18	大島のとうどおくり 1月第2月曜 大島診療所前海岸広場	「とうど」は、左義長(さぎちよう)ともいわれ、正月の注連縄・神札・すす払い竹などを集め、小正月の早朝にはやし(おたきあげ)、無病息災を祈願する火祭り。一辺が3m前後、高さ6mから7mの四角錐を孟宗竹で組み、中心に10mの心棒を入れ、大幟を立てる。側は、すす竹を縄で巻き付ける。3分の1くらいの横に筭(こうがい)を通して小幟を40本くくりつける。大幟には「蓬莱山左義長」、小幟にはそれぞれの子供の名前を書く。材料は子供が集め、「とうど」は大人が組み立て、子供組が管理していたが、今は少子化により大人の手によって行われている。過去には、各部落(5地区)の男の子(小学6年～中学3年)が子供組を作り、「水くみ」「新入り」「大将」「食い抜け」に分かれ、大将を中心に作業分担を決め運営した。当日、集まった人々は餅を持ち寄りとうどの灰をのせ、持ち帰ってから食べる。はやされた竹を切って持ち帰り屋根の上上げておくと火災から免れるという。現在は人口減少と高齢化のため、とうどの数を減らして実施している。(市)〔詳細調査報告1参照〕	B

市町	地区	テーマ	行事名 / 行事日 / 場所 / 保存団体	概要	存続状態
新居浜市	31	19	大島の盆行事 8月14日 大島診療所前海岸広場	当初は死者が出た家の庭で踊っていた。服装は、男は黒服で顔を包み笠かぶり紋付袴白足袋、女は白衣に緋の袴お下げ髪に鬘斗をつけて踊る。歌の文句（口説き）は四句のいろは歌だったらしく静かな手振りである。縁台の上の太鼓一つに2、4人で打ち、口説きは番傘を持ち、空樽で音響を保っていた。縁台の周辺に子ども達がすわってはやす。踊り手が縁台を二重三重に取り巻き踊る。時代の移りと共に死者の出た家の庭から寺の庭、各部落の広場に現在では、海岸広場1カ所のみで行われている。口説きは江戸時代中期から今の口説きとなった。踊りも仮装踊りとなってにぎわっていた。現在ではテンポがゆるいため若者には向かず、さびれつつあるので、伝統文化伝承として保存会の努力により、盆踊りの一つとして継承している。	B
	31	2	大島秋祭り 10月第2土日 (10月13日～15日) 大島八幡神社	戦前は川東の祭り、昭和41年から新居浜の秋祭りに統一されたが、現在は10月第2土日に変更されている。第2土曜の夜になると屋台（夜宮）が、ぼんぼりと提灯をともし音頭を歌い太鼓、鉦、三味線の優雅な囃子で巡行する。「夜宮」は、唐破風屋根に重層高欄付で彫刻や、刺繍、染めの幕で飾られている。大小5台の屋台が上之町、中之町、西之町にあり、藩政時代からのしきたりとおりに運行される。第2日曜には満潮時に船御幸が行われ、船に神輿を載せて沖に出て、沖ノ島（魚島）が見えるところまで行き、2周して帰る。鬼が出て、神輿を警護する。午後は御旅所まで神輿が巡行し、町内を回り宮入りする。	B
	32	10	別子祭 11月3日 山城神社	山城神社の秋祭は11月3日文化の日に行われている。これは別子銅山社員も祭に参加できるように昭和30年ごろから休日に合わせたものだという。当日は神輿の渡御が行われ、早朝宮出しした神輿が氏子地域（弟地地区より東側）をトラックで巡行する。神輿は古来のものがあったが昭和26年落雷で焼失し、東平の銅山が閉山する際に地区から譲りうけた。また、神社の拝殿前に整備された土俵で、子供相撲が奉納される。参加するのは地元の子どもや帰省した家庭の子どもなど、15人ほどにもなる。ほかに景品が当たる福引（くじ引き）を行い、地域の親睦を深めている。なお、幟は一週間ほど前から立てる習わしで、現在も継承されている。	B
	32	5	大鉋祭 1月4日 大山積神社	別子銅山で採掘した鉋石（鉋）を銅山鎮護の大山積神社（山神）に供える祭礼である。別子銅山では、毎年元旦に前年に採掘した高品質で巨大な鉋石を鑿だけで加工し、独特の様式で厳重にしめ縄を張って輿に乗せ、神社に奉納した。神社が別子山にあったころは橇や台車に乗せて巡行していたが、神社が角野新田町へ移転した昭和4年以降は鉄道やトラックで端出場まで輸送し、そこから輿に乗せ、神社まで練り歩いたという。また、大鉋を乗せた鉄道が発発する際や、渡御の最中、神事の最後に「大鉋の歌」を参加者で唱和した。大鉋祭を終えた鉋石は四阪島へ送られそこでも神事（鉋鉋式、吹き始め）を行ったうえでその年最初の鉋石として溶鉋焔に入れられた。銅山が閉山した昭和48年以降も形を変えて式典は行われ、毎年1月4日幟を立てられた大山積神社の境内に法被を身に着けた住友各社の関係者が参集し、両手で持てるサイズの小鉋を奉納、大鉋の歌を斉唱した（大鉋の歌は平成2年に開鉋300年を記念して再興）。令和2年以降は新型コロナ感染症により神事のみ実施している。	C
32	エ	般若さん 土用の入りの日までの 数日間 圓通寺、地域の民家	土用の入りの日までに大般若経を納めた経櫃を担ぎ、各家を回る。当日は白衣を身に着けた役員が南光坊圓通寺に集まり、住職の読経を受け、大数珠を繰る。1時間程度の法要が終わると、大般若経を納めた経櫃（般若心経の入った箱）を二人組で担ぎ、各家を訪問する。その際、お札を配布する。過疎化のため平成28年ごろから中断している。	D	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	33	19	喜多浜の盆行事 8月16日・8月24日 (旧7月15日～16日) 蛭子神社	喜多浜の盆踊りはとことん踊りとも呼ばれ、真ん中に太鼓を据え、トコントコトコトと太鼓を叩く。昭和期には、赤穂浪士や貫一お宮などの仮装をして、何度か着替えをしながら踊った。	D
	33	19	お観音さんの花火 8月17日 (旧7月17日) 加茂川河畔中堤防、 禎祥寺	「天正13年7月17日禎祥寺の僧林瑞、徳常寺の僧任瑞らが野々市ヶ原で戦死し、翌年の新盆に送り火として花火を打ち上げたことに始まり、400年以上の歴史を持つ」と言われているが、天保の「西條誌」や「雨夜の伽草」他、江戸時代の記録はなく、明治20年代の海南新聞にも観音堂の花火の記事はない。むしろ観音講の縁日17、18日に近代になり花火が流行した時に取り入れられたのではないかと考えられる。それに天正陣伝説と盆の行事が加わり、流布したのではないかとと思われるが、100年以上の歴史を持つ花火大会にはちがいない。現在は西条市市民納涼花火大会として西条市観光物産協会を中心として開催されている。観音堂の周りには蠟燭を灯した赤い提灯が吊られ、豪華な4500発の花火が打上げられ3万人の出入がある。	B
	33	31	栄町の帳祝い (帖まつり) 1月11日 商家	農家で楯初めをするように商家では帳祝いをした。帳箱に注連縄を張り、机の上に算盤、新しい帳簿を置いて店の者で商売繁盛を祈願する。その後、床の間の鏡餅を下げて、鏡開きをし福沸かしをした。昔は新しい帳簿を綴じて上書きをしたが、現在は保存されている百年前の帳簿と新しいノートを置き、お祭りしている。商家の正月行事。	B
	33	18	栄町のお日待ち 1月6日 (旧1月6日)	正月6日の晩、町内年番の座敷(新築があればその家)が当家(お日待ち宿)となり、恵方に神棚を設け、注連縄を張り、神主を呼んでお日待ち神事を行う。家の外には御神灯を立て、場所を示す。現在は町事務所や住吉神社で行っている。戦前は青年男子が準備をし、料理も男料理で女人禁制であったが、戦後は婦人部が買い物、料理をするようになった。正月6日の晩は変更されず、神主を呼んで神事後、初寄り合いで町内新役員を決め、年番を交代する。その後お神酒を戴き、共同会食。一夜を明かし、7日の日の出を拝んで解散し七草を迎えた。現在は共同会食が終わるとお開きになる。翌日お供えの鏡餅を開き、お日待ちの御札と御神酒とお下がりを年番が各戸に配って回る。各戸ではお盆にお神酒を入れる酒器を載せて待つ。組境にお日待ちのお札を立て、悪疫が入らないようにした。	B
	33	18	魚屋町の大般若 (おほんにゃはん) 地蔵寺 (正月・5月・10月17日)	お日待ちの後日に行われる。青年団が地蔵寺の大般若経600巻を2箱に分けたものを担ぎ、その後ろにお日待ちにかけていた十三仏の掛け軸を入れた木箱が続き、各家を回る。大般若の箱の下をくぐり、掛軸の箱で頭を軽く叩いてもらおうと無病息災になるという。同時にお日待ちの札、お下がりのお菓子を配って回り、町の境にも御札を立てて悪疫などが町内に入らないようにする。以前は1月7日の行事だったが、青年団の仕事の関係から土日に変更された。大般若は正月と、5月の地蔵寺祭、10月の伊曾乃神社祭の後にも札とお下がりを配るときに担いで回る。	A
	33	10	北之町の荒神相撲 旧9月27日に近い日曜 (旧9月27日) 北之町荒神社	集落鎮守の「お荒神さん」で晩秋に荒神祭(荒神の縁日)が行われる。神事後、子供相撲が執り行われ、町内からお花を集めお賽銭も加え賞金とする。平成まで旧暦の晩の行事だったが、近年、11月下旬の日曜日の昼間に行われるようになった。幼児、女兒の参加もある。	B
	33 ・ 34 ・ 36	2	伊曾乃祭礼の屋台行事 (西条まつりの屋台行事) 10月15日～16日 (10月22日～23日) 伊曾乃神社、御旅所、 御殿場、永易堤、加茂川原	現在の行事としては14日が前夜祭。15日早朝より伊曾乃神社で宮出しがあり、屋台、御輿が町を回る。神輿は20ヶ所の御神楽場を巡り、御旅所の御仮屋で一泊する。16日早朝神輿を迎えに屋台・御輿が御旅所に集合、練りを見せ、一番屋台を先頭に行列が出発、御殿前へ巡行する。神輿は16ヶ所の神楽場を巡幸する。夕刻、堤に並んだ屋台が見送るなか、川を渡った神輿は御神楽を上げ、膝元3台の屋台に導かれ伊曾乃神社に還御する。提灯を付けた屋台・御輿は町々村々へ帰り、最後の練りを見せる。鬼頭が警備し、祭礼を進行する。(市)〔詳細調査報告7参照〕	A
	33 ・ 34 ・ 36	15	なごせ (夏越祭・わごせ・ おなごせはん) 旧6月15日 加茂川川原	午後、小神輿と幟の行列が伊曾乃神社を出御。伊曾乃の橋を渡り御旅所で休憩、常心から大町四ツ辻を通り、加茂川の川原へ巡幸する。川原には仮屋を設け提灯で飾る。中で巫女が舞い、神事が行われる。人形さんを持った人たちが茅の輪をくぐり参拝する。夜店もたくさん出て賑わう夏祭り。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	34・35	2	飯積祭礼の太鼓台行事 (西条まつりの屋台行事) 10月17日～18日 (旧9月15日～16日) 飯積神社、船屋、 渦井川、室川	16日は自由運行。17日の神輿巡行は隔年で東回り、西回りとなる。午前3時太鼓台11台が飯積神社へ向かい宮出し、4時には船屋を目指し引き比べ。午前9時には渦井川に揃い御神輿を待ち引き比べ。正午八幡神社で昼食。室川西原川原で引き比べ。下島山へ巡行し、夕刻飯積神社前の川原へ。太鼓台11台の寄せ引きが行われる。隣の太鼓台の引き棒をくっつけ横一列になり、指揮者の号令で揃って差し上げる。昔は「飯積祭りで石が飛ぶ」と言われた喧嘩祭りだったが、約50年前から平和運行を続けている。重の四隅に人が上がる重係は、道路運行中の障害物除去が仕事であり、神前の練りでは不敬であると飯積神社の太鼓台は川原などの練りの時に上に人が乗っていない。(市)〔詳細調査報告7参照〕	A
	37	9	乙女川の川狩り 10月初旬の大潮の日 乙女川	西条市禎瑞は天明年間に西條藩が干拓して開いた新田。加茂川と中山川の河口に挟まれた乙女川では毎年10月の秋祭り前に川狩りが行われ、小舟を出し、投網、手玉などで魚を捕る。天保の「西條誌」に「秋は御免許ということありて殺生を許す」とあり、普段は藩の「御止め川」が一般庶民に開放されたことが記されている。川中に鎮座する龍神社の乙姫から乙女川の漢字になったという。近年は禎瑞土地改良区が管理している。かつては嘉母神社祭礼の御馳走にする魚を捕るために秋祭り前に潮の加減を見て日を決めていた。現在は伝統行事を継承するため禎瑞小学校児童の体験教室にも取り入れられている。	B
	37	2	嘉母祭礼の太鼓台行事 (西条まつり) 10月スポーツの日の 前々日と前日 (旧9月7日)	神幸祭では午前8時より嘉母神社で宮出し神事があり、太鼓台は境内で引きくらべをする。神輿の渡御の先導は6台の太鼓で、昭和45年頃より子どもの作った太鼓台も渡御に加わるようになった。中組、上組で御神楽。10時加茂川上組河川敷で引きくらべ。12時八幡荒神社で昼食、14時高丸、15時に水郷難波、北端の龍神社で休憩、16時下組、17:30嘉母神社に帰り宮入り。御神輿に名残を惜しみ3台ずつの太鼓台が引き比べをする。古くは龍神社に奉納相撲があり、乙女川の川狩りでとった魚を祭りの料理にするため、潮の加減で川狩りの日が決まってから秋祭りの日が決まった時期もあった。〔詳細調査報告7参照〕	B
	37	26	たのもさんと百万遍 7月・8月 (旧8月朔日) 禎瑞公民館	昔は田実(たのみ)の節句といって、稲の実りを祝う農家の大切な行事の一つであった。米の粉の団子で10cmばかりの人形を沢山作る。これを「つまみだのもはん」という。その他に、ナス、かぼちゃ、魚、十二支のかたちなどを作って並べて祭りをする。この団子細工を食うことを「かたぐ」という。おたのもさんの後、まるく輪になって座り「稲の虫はいんでくれ」とカネをを叩きながらリズムをとのえて大数珠を回し百万遍と呼ばれる虫送りをする。虫送りのあとは手のひらよりも大きなおむすびを食べる。令和3年以後は新型コロナウイルス感染症対策のため百万遍は中止している。	B
	37	31	鍬ぞめ 1月11日 嘉母神社	安永7年(1778)4月、奉行竹内立左衛門が藩命を受けて、加茂川、中山川の下流の三角州を利して新田を開拓するに際し、加茂川下流の州上(現在嘉母神社の本殿の所)に藩内祈願社六社(村山・黒島・一宮・伊曾乃・石岡・周布の各神社)の神主を招じて子祠を建て天神地祇を勧招した。竹内氏はこの祠に御神神を合祀して産土大神とした。歴代藩主の崇敬厚く、例年鍬初祭には参拝したという。2022年1月11日「第244回お鍬初め」が禎瑞土地改良区主催のもと小雨の中で開催された①参進(かき台を年男が持って、宮司を先頭に行進)②床ならし(田のように平たくならす)③早苗を植える(禎瑞小学生)④宮司による神事⑤西条市長・市議会議員および役員の玉串奉奠⑥主催者挨拶と式次第にそって厳粛に行われた。	B
38	29	石鎚神社のお山開き 大祭(お山市) 6月30日～7月11日 (旧5月24日～旧6月3日) 石鎚山	石鎚蔵王権現や御神像三体を石鎚山へ上げる「お上がり」と麓へ下げる「お下り」の行事を中心とした登山の幕開けを告げる10日間の大祭。現在は6月30日口宮本社からご神体を乗せた三体の御神輿が出御。小松、氷見を経て成就社へ。7月1日には智仁勇を表す三体の御神像が信者の背に負われて頂上社に登る。全国の石鎚講、崇敬組合から信者が集まり、精進潔斎して神事が行われる。現在も7月1日は女人禁制である。前神寺では三体の蔵王権現を唐櫃に納め常駐の奥前神寺、弥山まで上げる「お上がり」行事が行われる。10日にお山開きは終わり、11日に「お下り」行事が行われる。役行者が開祖とされ修験道の山伏の神仏混淆の行事も残る。近辺の村では昔は15歳前後になると石鎚に登り「のぞき」をし、鎖に登り、一人前と認められた。〔詳細調査報告51参照〕	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	38	2	石岡祭礼の屋台行事 (西条まつり) 10月14日～15日 (旧8月14日～15日) 石岡神社御旅所	現在は13日に前夜祭。14日は午前9時に石岡神社様の馬場に屋台が集まり本殿祭が行われる。だんじり(屋台)27台、神輿(太鼓台)2台を奉納。各屋台は御札と番号札を受け取り午後から自由行動。15日は未明桜の馬場に集まり宮出し。御神輿に供奉して御旅所へ巡行。氏子を巡り夕刻坂浦の馬場へ帰り宮入りとなる。日が暮れると提灯を付けて町々へ帰る。(市)〔詳細調査報告7参照〕	A
	38	8	浄光寺の地蔵 1月23日・8月23日 地蔵堂	この地蔵菩薩は、戦などで亡くなった人を供養するために享保11年に造られたものを、塩出家の先祖が江戸から西条まで背負って帰り、当時の野々市村に浄光坊を建てて奉納したことに由来する。毎年1月23日と8月23日は特別な供養日とされ、神戸の安知生にある萬頃寺の僧侶が来て経をあげる。	C
	38	15	おなごせはん 市内各地 7月20日	茅の輪をくぐる。	B
	38	1・18	左義長 (とうどうはん) 1月9日(1月15日) 個人の田(氷見各地)	三毬杖(さぎちょう)とも書き、「とうどうばやし」「とうどうはん」ともいう。門松やしめかざりなどを集め、個人または集団で焼く行事。このとき焼くというのを忌んで「はやす」という言葉を用いる。この火で焼いた餅を食うと夏病みせぬ、この火で温まると風邪を引かぬ、焼け残った松や竹を持ち帰り、屋根に投げ上げておくと、火災除けになるなどというところもある。とうどうはんは集落ごとに立てるが氷見地区では大久保、山道、上町・切川、西町が続いている。西町では中央に孟宗竹の芯柱を立て周囲に八本の孟宗竹の柱8本を円錐状に配置し、外面は稲藁で編んだ袴を巻き付ける。高さ約5m、直径4mの円錐形につくる。自治会と青年部が36年続けている行事で2021年度は12月12日に立てた。2022年1月9日曜日には各家庭から持ちよった正月飾り・しめ縄を飾りつけ、はやした。	B
	38	18	おはんにゃはん (大般若) 氷見各地 1月・5月・9月	部落の青年が、吉祥寺から大般若経をいれた櫃を借りてきて、戸毎にかつぎ込み「お札」を配る。この櫃の下をくぐり抜けると吉事があるといわれる。地域の四角にも邪気が入らないように札を立てる。	B
	38	9	高尾神社例祭 4月28日～29日 高尾神社	明治の初めまでは「牛頭天王社」といっていたので、今でも土地の人は「天王さん」と呼んでいる。祭は神社の出入りにのぼり旗、参道・境内は提灯をかざして前夜祭では福引、おでん、たこ焼き、生ビールとにぎやかに開いた。翌29日の本祭りは神輿にだんじりがお供して氏子部落を巡る。令和3年は縮小開催とし、神輿のみで11部落を巡るにとどめた。	B
	39	23	大保木の銀納義民祭 8月16日・24日、 11月28日 治平堂、極楽寺、 ふれあいの里	江戸時代の銀納義民の霊を弔うために始まったとされる祭りで、7種の踊りがあり、大保木の太鼓踊りと呼ばれる手踊りを踊る。8月16日は銀納義民の供養祭として治平堂で行われる。8月24日は石鎚ふれあいの里でふれあい盆踊りが行われる。11月28日は銀納義民の命日で慰霊祭の後、「おつり」というトウモロコシの粉に野菜を入れた粥状の料理を食べる。	B
	39	8	大保木東宮神社祭礼 10月10日 東宮神社境内・御旅所	神輿のお供をして獅子舞が地区を回る。大保木の暴れ獅子といい、獅子の中には複数の人間が入り、頭の使い手が途中交代しながら舞う。	B
	40	8	荒川八幡神社祭礼 11月3日 荒川八幡神社 荒川獅子舞保存会	神輿のお供として獅子舞を奉納している。荒川の獅子舞は太鼓のリズムが早く激しい舞いが特徴で、なぶりこが獅子を退治するさまを演じている。大正期には御旅所で舞う習わしとなったが、昭和45年ごろから過疎化が進み昭和48年に加茂公民館が中心となり「荒川獅子舞保存会」を結成し現在に至っている。	B
40	19	千町の盆行事 8月15日 誓願寺境内 盆踊保存会	とんかかさ踊りの後、とことん踊りが奉納される。とんかかさ踊りは、太刀を持った2人が一組となり、打ち込みと受け止めの型を交互に繰り返す刃踊りで、天正期に來援の土佐の武者伊藤近江守祐晴らが当地に住み着き、戦死者の慰霊のために観世音菩薩の縁日に奉納した踊りという。とことん踊りは扇子を持ち踊る扇子踊り。太鼓と歌詞は丹原町田滝のお簾踊りとよく似ているが扇子の回し方がちがう。	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	41	26	たのもさん 旧8月1日 国安公民館他	旧暦8月1日八朔の日に米の粉「しん粉」で作った「たのもさん」を祭る風習がある。たのもさんは、八朔の前日に作る。米の粉を練り、これを蒸して着色した何種類かの色団子である。一番たくさん作るのは、つまみたのもさんと呼ばれお膳の周りに並べられる踊り子人形である。長寿を祈る鶴亀や身近な動植物を象った人形も並べ、翌日には隣近所のたのもさんを見て回った。	A
	41	9・10	秋祭り 10月17日 国安地区内2神社	氏神の祭礼では秋祭りが最大である。両氏神では子供相撲大会が行われ、子どもの成長を願った奉納が行われている。	B
	41	35	おかげん (管弦祭) 旧6月17日 鷺森神社近くの浜辺	おかげんの名で親しまれている鷺森神社の管弦祭は、安芸厳島神社の神事になり、旧暦6月17日に行われている。午後11時頃、御神体を注連竹・幔幕(まんまく)提灯などで飾り付けた御座船に移して、宮出しが始まる。御座船は雅楽を奏しつつ、大小供船を従え、沖合まで漕ぎ出して行く。	A
	41	18	柳森神社初市 2月中旬 (旧1月7日～8日) 明理川柳森神社	やなぎのてんのうさんの名で親しまれている明理川柳森神社に市が立つ。昔はこれが周桑地区の市初めで、この日が天気であれば、18日の観音寺(久妙寺・興隆寺)、24日の地藏市(実報寺)も天気であると言い伝えられている。今では戦前ほどの賑わいを見ることはできない。土産物の露店が並ぶなか、縁起笹を買い求めたり、商売繁盛や合格祈願をする人々が参詣に訪れる。	A
	41	1・18	とうとうさん (しんめいさん・ どんど焼・神明祭) 1月11日に近い土日 (1月11日)	11日に各家庭の注連飾りを頭元の家や広場に集め、不足分は緋い足してとうとうさんを巻き上げる。巻き方は地域によって特徴がある。15日(小正月)とうとうさんをはやす(燃やす)。この時、煙が高く舞い上がるほど、一緒に燃やした吹き抜きや紙片が高くあがるほど幸福になれるとか、豊作であるとされる。とうとうさんの火は神聖視され、灰は田畑に入れたり、火鉢・こたつに使われたりした。この火や灰で餅を焼いたり、お飾りさんの橙を焼いたりして食べると、無病息災で暮らせるという。	B
	41・42	15	オナゴセハン・ワゴセ 旧6月中旬 神社境内	夏越祭が近づくと、氏神から家族人数に応じて人形が配られ、氏子はその人形で身体をなでて、身のけがれや病を人形に移し、祭礼の日に神社に納める。社前には藁や茅で作った大きな輪が設けられ人々はこの輪を潜って参拝し、無病息災で夏を過ごせるように祈る。	A
	41・42・43・44	2・6	東予秋まつり スポーツの日の連休土日	戦後衰退していたが、平成になり復活新設された。だんじりの統一運行があり、令和5年は10月7日(土)午後6時30分～午後8時30分、壬生川駅前通りで行われた。保内八幡神社、鶴岡八幡神社、柳森神社、美保神社、五所神社の各神社で宮出し、渡御、宮入り。周布地区は15日～16日が祭礼で、周敷神社はみこし、子供だんじりが出る。頭屋制度がある。徳威神社ではだんじりが出る。吉岡地区は10月16～17日が祭礼で、獅子舞や子供だんじり等が出る。	B
	42	1・18	とうとうさん (しんめいさん) 1月11日に近い土日 (1月11日) 大曲公園	各家庭の注連繩飾りを頭元の家や広場に集め、不足分は緋い足してとうとうさんを巻き上げる。近年は11日に近い土日に巻く。巻き方は地域によって特徴がある。正月15日(小正月)とうとうさんをはやす(燃やす)。この時、煙が高く舞い上がるほど幸福になるとか、豊作であるとされる。とうとうさんの火は神聖視され、灰は田畑に入れたり、火鉢・こたつに使われたりした。この火や灰で餅を焼いたり、お飾りさんの橙を焼いたりして食べると無病息災で暮らせるという。炎が高く舞い上がると頃合いを見て吹き抜きをはやす。	B
	42	19	壬生川の盆行事 8月19日 闇囃(くらみつ)神社境内	夜、トンカカはんと呼ばれる盆踊りが奉納される。(市)	B
	43	9	吉岡地区の秋祭り 10月17日 高知神社・甲賀神社	獅子舞の奉納があり、なぶり子と呼ばれる子ども2人が獅子を踊らせる。獅子舞は神輿と共に行動し氏子の家で奉納。子供神輿もある。	B
43	27	亥の子 11月亥の日	亥の子の晩、子どもたちは亥の子歌にあわせ、亥の子石や藁でつくった棒状のもので家々の門先の地面を打って回り、ごほうびをもらう。	B	
43	15	虫おくり 8月の土用 観念寺・宝林寺	寺に集まり、お互いの健康を祝す。ナムアミダブツの経文を唱えながら鉦、太鼓の音に合わせて本堂一杯に広がる数珠を1つ1つ繰りながら、暑い夏を無事に元気で越すことができるようにと家内安全、五穀豊穡を祈念する。	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	43	15	なつこし(夏越)・わごし(輪越) 6月中旬 神社境内	氏子は人形で身体をなで、身のけがれや病を人形に移し、祭礼の日に納める。わら等で作った大きな輪を作り、人々は輪をくぐって参拝し、無病息災で夏を過ごせるように祈る。	A
	43	25	黒谷の奉射行事 1月2日 大元神社	村の安全と五穀豊穡を祈願し弓矢で的を射る。以前は滝で身を清め、紋付羽織と袴の正装で行われたが、現在は子どもも含め10名程度で行い、服装も自由。	B
	43	18	とうとうさん (どんど焼・神明祭) 1月第2日曜	新年のお飾りや古神札等を焼納し、新年の幸を祈る。とうとう火は神聖視され、この火で焼いた餅を食べると無病息災でその年が過ごせるといわれ、煙が高く上がると幸福になるとか豊作であるといわれる。	B
	43・44	26	たのもさん 旧8月1日 公民館	米粉を練り蒸し着色して何種類かのつまみたのもさん(たのも人形)と呼ばれる色団子を作る。一番たくさん作るのは踊り子人形で、輪状に並べ、輪の中には長寿を祈る鶴や亀、身近な動植物を形どったものをつくり置く。〔詳細調査報告45参照〕	A
	44	15	きゅうり封じ 8月の土用 世田薬師寺	きゅうりに病者の氏名、病名を記したお札を添え祈祷ののち本堂裏の穴に埋め、病苦を封じこめる加持祈祷。江戸時代から伝わる秘法である。	A
	44	27	亥の子 11月の亥の日 楠・清福寺地区	晩、子どもたちは亥の子歌にあわせて、わらで作った棒状のボテや亥の子石で、家々の門先を打って回りこほうびをもらう。	B
	44	8	秋祭り 10月第2土日 宮の内神社	宮出し前に子どもによる獅子舞と太鼓の演奏、舞が奉納される。	B
	44	15	なつこし(夏越)・わごし(輪越) 6月中旬 各地区神社	氏子は人形で身体をなで、身のけがれや病を人形に移し、祭礼の日に納める。わら等で作った大きな輪が設けられ、人々は輪をくぐって参拝し、無病息災で夏を過ごせるように祈る。	A
	44	1・18	とうとうさん (どんど焼き・神明祭) 1月第2または第3日曜 地区広場	新年のお飾りや古神札等を焼却し、新年の幸を祈る。とうとう火は神聖視され、この火で焼いた餅を食べると無病息災でその年を過ごせるといわれ、煙が高く上がると幸運になるとか、豊作であるといわれる。以前ははやす一週間前にとうとうさんをつくっていた。	B
	44	35	龍宮さんのおかげん祭り (火舩祭) 旧6月11日 河原津漁港	河原津大崎龍神社の例祭。神輿の海上渡御をする管弦祭で、「火舩祭」と呼ばれる夏祭りである。祭典の後、海上渡御し村内を巡幸する。〔詳細調査報告56参照〕	A
	45	2	三嶋神社秋季例大祭 10月16日～17日 三嶋神社	10月16日早朝宮出しが行われる。神輿は玉之江地区を巡行し三嶋神社へ戻る。だんじりと呼ばれる屋台は地元自治体内や小松町内を回り、お花を集める。翌日再び新屋敷地区へ向けた宮出しが行われ、各だんじりも境内に集まり、神輿を送り出す。神輿は本方と呼ばれる新宮地区から、川原谷、西町西組、西町東組、中町、東町、旧藩、岡村、中常盤、宝来の順で回り、各自治体のかき夫が順々に中継していく。各自治体では2～3箇所程度御旅所があり、神輿はそこに据えられて周辺氏子の参拝、お祓いが行われる。各地を巡行して再び本方の新宮がかき、宮入となる。	B
	45	2	いよ小松まつり 10月14日～17日	10月14日～15日の河内八幡神社、10月16日～17日の三嶋神社、高鴨神社、一之宮神社、柳神社の祭礼でだんじりが出る。小松地区統一かきくべがある。三嶋神社の宮入では、急勾配の階段をだんじりが上がる。	B
	46	8	石鏡諏訪神社祭礼 11月3日 石鏡諏訪神社 石鏡諏訪神社獅子舞保存会	廃村となった千足山村の村民であった、小松町北川等の住民により伝承される。毎年の祭礼日に30～40名が諏訪神社に集まり獅子舞を奉納。演者はなぶり子(小中学生)と、獅子2頭の大人で、いくつかの演目が行われる。最近祭礼日1ヶ月前から中山川河原で練習し、親類縁者を中心に人を集めているが、西条市のみでは奉納演者が足りない状況である。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	46	9	石土神社祭礼 10月14日～15日 都谷集会所・石土神社	獅子舞が出る。獅子頭(唐獅子)は雌雄2頭、三色染めの胴幕(ユタン)に複数名が入り演舞を行う獅子舞で、なぶり子(子供2名)・太鼓(2名)・使い手(封数名)で行い、あばれ獅子と呼ばれる激しい舞いもある。神社奉納と各家訪問を行う。	B
	46	29	石鎚神社のお山開き大祭(お山市)	西暦600年頃、修験道開祖・役小角(役の行者)が霊場を開き、山岳信仰の道場としたと伝わる。以来今日に至る西日本の一大修行場となっている。また、四国霊場60番札所・横峰寺は、上仙上人が宝亀年中(770～81)に堂宇を建立し、修験道開基になったと伝わる。現在も、尾道・広島・松山から九州に至る広範囲に「石鎚講」が存在し、7月のお山開きに登山を行っている。安井地区では阿弥陀池で水垢離をとり、先達に率いられ行者登山を行っていたが、令和に入りコロナ感染拡大で「講」の代表者などが登るようになった。〔詳細調査報告51参照〕	B
	46	15	虫祈祷 横峰寺	村内(石鎚地区)の神社仏閣では、40～50年前までは、横峰の神燈を受けて、この火を松明にして振りながら虫害の祈祷を村で行った。	E
	47	15	大般若経 6月土用の日 妙口・大頭・明徳地区	子どもたちが「オニヤハン」の箱の下をくぐり、また各家にお札を配って歩く。午前8時頃から始まり、子どもたちは御礼をもらえる。	B
	47	23	おえのきさん 旧6月7日 妙口・都谷地区	戦国時代の剣山城主・黒川氏の姫と姥の終焉の地で、自治会が中心となり当番制で精進料理と御詠歌で供養する。13:00～18:00頃までテントを設営し、交代で接待をするが、今後継承していくには、負担が大きくなっている。	B
	47	8	田中の地藏さん 妙口地区	江戸時代から、周辺の土地(田圃)を所有し、賃料でお守りをして来た。昭和30年頃までは、盆踊り(トンカカはん)を開催し、露店なども出ていた。地区内の中組を3班に分け、子どもなど30人がお供えをする。現在は謂れも伝わらず、地区の興味も続くか不明である、とのこと。	B
	48	31	地祝いさん 1月11日 地区内の農家	地区内の各農家が自宅の庭先や農地にクスギ・カシや萩の木にススキを添え紙垂を立て、餅、米、黒大豆、すめ、酒等をお供えし今年の豊作を祈る。お供え餅は割って神棚にお供えする。近年は数軒しか行っていない。	B
	48	1・18	とうとうさん(神明さん) 1月15日に近い土日(1月15日) 池田地区遊園地	12月中旬～下旬の土・日に地区民、各種団体、子どもたちが竹で杵をつくり飾り付けをする。これに正月明けの土・日に、小学生が各戸から集めてまわったり、個々が持ち寄ったりした注連縄や正月飾りをくくりつける。1月15日前の土・日の良い日に地区民、各種団体、子どもたち80～90人が集まり午前中にはやす。はやした残り火で餅を焼いて食べ1年間の無病息災を祈る。	C
	48	27	お亥の子さん 旧10月亥の日に近い土・日	午後子どもたちが集まり、地区内東、西に分かれ、東分は藁を縄で巻いたホテ、西分はごうりん石に縄をつけて、各戸順番に庭先でごうりんさんの唄を唄いながらついて回る。元来男の子の行事であるが近年は子どもが少ないので女の子も一緒に行く。	B
	48	6・18	お日待ち 1月6日 久妙寺地区内各組の当屋	久妙寺地区を4組に分け、各組の当屋に日天さんの祭壇を作り、組の関係者が集まり僧侶を招き、皆で家内安全、五穀豊穡のご祈祷をする。その後行事計画は世話人役を決め会食をする。	A
	48	15	夏越祭(輪ごせさん) 7月25日 福岡八幡宮	福岡八幡宮氏子各戸に氏子総代より事前に人形を配り、その人形に名前や年齢を書き自分の体をなで、祭り当日「ひとがた」を持って神社に作ってある茅の輪をくぐって参拝して納め、宮司のご祈祷を受け無病息災を祈る。	B
	48	8	地藏講・大師講 毎月第3日曜 北市お庵	先祖供養のため、北市庵に安置された地藏尊を開帳し、地区民がお参りをする。お供え、清掃は月当番があたる。月当番は順番で各戸に回る。以前はお大師講と別に行っていたが現在は一緒にしている。	B
	48	8	えびす祭(お通夜) 1月・5月・9月 北市集会所	北市集会所に祀られている「えびすさん」(八坂神社)を毎月1月、5月、9月の年3回、地区民が夕方から集まり、世話人が用意したおにぎりなどで会食をしながら参拝し、朝まで通夜をする。近年は混住化が進み参加者も限られ、お通夜は午前0時で解散するようになった。	B
	48	9	熊野神社・天満神社の秋の例大祭 10月14日～16日	地区の中学生以下が踊る獅子舞、「ムカデ獅子」と「しんがい」が出る。獅子舞は1950年代に大人から子どもに移譲された。獅子は雄、雌2頭で1頭に10人入る。獅子と体格の小さい子どもが務めるなぶりこ4人、大太鼓、小太鼓1人ずつで演じる。	C

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	48	18	お日待ち 1月13日 各組世話人宅	徳能地区6組を2組に分け、世話人宅に日天子の掛け軸をかけ祭壇を作り、お供え物をして、午後6時、翌朝6時に組の者が集まり、僧侶を招き読経をして1年間の家内安全、五穀豊穡を祈願する。夜は会食をしながら行事の報告や計画、世話人などを決める。朝は朝食を食べ、お供えの大きな餅を切って各家庭に配る。	A
	48・49・50・51	2	丹原秋まつり (福岡八幡神社祭礼) 10月15・16日	神輿渡御にだんじり、みこしが出る。戦後衰退していたが平成になり多数のだんじり、みこし、太鼓台が復活、新設された。10月15日午後6時には近隣のだんじり、みこし、太鼓台が丹原商店街おまつり広場に提灯を付けて集まる。上町と周布久枝のみこし、今井、下町、池田、田野、辻堂のだんじり、下町、久妙寺、願連寺の子供太鼓台が出る。だんじり、みこし、太鼓台は、16日の福岡八幡神社の祭礼、御神輿の巡幸に供奉する。獅子舞も出る。	B
	49	15	牛さん願・馬さん願 6月第1丑の日 奈良原社	地区自治会役員、世話人が牛馬をお祀りしている奈良原社に集まり、僧侶を招き牛馬の無病息災を祈願する。現在地区内には牛馬は1頭も飼育されておらず、この行事はいつまで続くかわからない。	A
	49	23	徳能祭 4月第1日曜 丹原町徳能常石山城跡	徳能の常石山城城主得能通綱は建武の新政で宮方に応じ守り死力を尽くしたが、一族郎党自刃した。明治以後の叙勲以来、今上陛下の御大典行事として昭和初期常石山城跡に忠臣の忠魂碑を立て、毎年4月4日(現在は4月第1日曜日)北越の地に散った英霊の忠魂にお迎えて、河野大明神祭(徳能祭)の祭祀を行っている。当日は自治会役員、地区民、地区の小学生全員が参加し、神事後、講話を行い土居・得能勤皇歌を合唱。小学生は地域の伝承行事として全員参加する。	B
	49	ウ	五社霊神祭 (渡部権太夫) 4月29日 丹原町徳能五社霊神祭祀	圧政と凶作に苦しむ村民の窮状を幕府に訴え処刑された権太夫とその家族を祀る五社霊神の小祠に、地区民が集まって神事を行い、子供神輿を出してお祭りする。	B
	49	8	お般若さん 7月第1日曜 地区各戸	田植えが終わった7月第1日曜日田植えの疲れを癒す「田休み(田上がり)の日、大般若経の入った櫃3箱、かき夫3組に分かれ地区内1件ずつ回り、家の人は櫃の下をくぐり、無病息災を祈念する。	A
	49	15	夏越祭(輪ごせさん) 旧暦6月晦日 高知八幡神社	夏越祭の数日前に紙に「人形」を印刷した紙を配り、その紙で自分の体をなでて、夏越祭の日に神社に納める。神社では茅で輪を作っておき、参拝者はその輪をくぐり、夏の暑さに負けないよう無病息災を祈願する。	A
	49	8	薬師堂のお茶当番 毎日 徳出薬師堂	徳出地区にある薬師堂に地区の各家当番で、毎日ご飯お茶、花の奉祀をする。	A
	49	8	薬師堂のお開帳 3年に一度の春 徳出薬師堂	徳出地区で1750年頃より続く行事で、地区にある薬師堂に僧侶2人を招き、2日間にわたり、薬師仏厨子のお開帳及び曼荼羅を公開し、経読を唱えて地区の安全祈願と法要を行う。地区民は総出で参拝する。	A
	49	31	地祝いさん 1月11日 各農家の農地	農地に、クヌギの木又はカシの木にススキ(穂長)を納め紙垂を立て、黒豆、数の子、重ね餅、酒等を奉納。五穀豊穡を祈念し、その場で食す。現在は高齢者、中堅農家のいる数軒のみが行っている。	C
	49	1・18	とうとうさん 1月15日前の日曜 (1月15日)	毎年地区内の当番組が1月10日前後に「とうとうさん」飾りを作り、はやす前日又は当日の早朝各家庭から持ちこまれた正月飾りを「とうとうさん」にくくりつけ、早朝からははやす。はやした残り火でモチを焼いて食べ1年間の無病息災を祈る。	B
	49	1・19	田滝の千灯・万灯 8月13日～15日 田滝奥の庵の入口	家族や親類が墓地入口に集まり、柿の葉の上に線香、肥松の小片を置き、米等を供える。これが一組で、新盆の家は48組、2年目の家は88組、3年目の家は108組を供え、そのお供えの中程の空いたところで松明に火をつけ、新盆は13日、他は14～15日に参り、仏の霊を迎える。近年は新盆を迎える家が殆どとなっている。	C
	49	8	高知八幡神社の秋の大祭 10月17日 高知八幡神社・御旅所・各戸	獅子舞が奉納される。獅子は赤・黒(雌雄)二頭で、一頭のユタンの中へ6～7人入るムカデ獅子である。太鼓に合わせ子どもが踊る「なぶりこ」に従い獅子頭に足を合わせておどる。太鼓は子どもが叩く。「なぶりこ」は赤黒に1～2名つく。演目は6曲。獅子舞は神社・御旅所に踊りを奉納した後地区内各戸を回る。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	49	9	貴布祢神社秋の例大祭 10月16日～17日 貴布祢神社・御旅所・各戸・徳田小学校・高知八幡神社	獅子舞が奉納される。獅子は赤・黒(雌雄)2頭で揃いの舞を舞う。舞は「しんか ^い 」と「さぬき」の二つある。さぬきは一組のユタンに8～10人が入るムカデ獅子、しんか ^い は2人～3人入り、ゆったりしたなぶり舞から、激しく獅子が舞踊る。大太鼓2個、しめ太鼓2個で小学生の「なぶりこ」2人が獅子をなぶりながら大太鼓を叩き、しめ太鼓は大人か中学生が叩く。獅子はなぶられてリズムカルに踊る。曲目は「まくら」から始まり23曲。16日は、貴布祢神社、御旅所・当元・徳田小学校・各戸、17日は、高知八幡神社に奉納。	A
	49	16・19	田滝の盆行事 8月15日 田滝小学校	お籠おどりが奉納される。この踊りは、400年ほど昔、住民が大旱魃で困り黒滝神社で雨乞い踊りをした時に本殿の御簾が動き大雨が降ったことから始まったといわれ、踊り手は揃いの浴衣を着て太鼓と音頭に合わせて、美しい扇子を両手指先に持ち、回しながら踊る。踊り手の休み時間には「早口口上」を述べる。(県)	A
	49	9	黒滝神社秋の例大祭 10月第2日曜 黒滝神社・御旅所・各戸	獅子舞が奉納される。雌雄2頭でユタンの中へ6～7人入るムカデ獅子の形態をとり、演目は1番～6番と爺婆の種まきがある。太鼓に合わせて踊る「なぶりこ」に従い獅子が踊る。なぶりこは小学校高学年4人で2人ずつ交代で踊る。太鼓は大小2個でたたく。	A
	50	15	夏越祭 旧6月15日 綾延神社	綾延神社氏子各戸に事前に配られた人形(ひとがた)に自分の名前や年齢を書き、その人形で自分の体をなで、当日神社の境内に設けられた茅の輪をくぐり、社殿に上がって宮司よりご祈祷を受け無病息災を祈る。	A
	50	18	お日待ち 正月三箇日を除く最初の日曜 宮下集会所	宮下集会所に大日天王の掛け軸をかけ祭壇を準備し、お供え物をして、夕刻より寺の住職によりご祈祷をして1年間の家内安全、五穀豊穡を祈願する。	B
	50	31	地祝いさん 1月11日 各農家	朝、屋敷近くの農地にカシの木とススキを立て、半紙を伐った御幣をたらし、半紙を挟んだ早乙女さん、若葉を挟んだ苗取りさんを交互に6本ずつ立て山草を敷いて餅一重ねとイリコを供え、鍬を打って農作業の所作を行い、五穀豊穡を祈願する。	C
	50	17	田休み(さんばいあげ) ・お般若はん 6月下旬～7月上旬 地区内各戸	地区内の田植えが終わった6月下旬～7月上旬の日曜日に「田休み」(さんばいあげ)と言って休日をとる。その日にお般若経の入った櫃をお寺より借り、世話人が地区内各戸を回り、家の人は櫃の下をくぐり、家内安全、無病息災を祈願する。	A
	50	8	箸蔵講 春・秋の年2回 箸蔵寺	明治26年の昔から続く箸蔵講行事で、地区で3組に分け毎年春と秋地区の代表10人前後が箸蔵寺へ参拝し、祈祷札をもらって帰り地区内に配り地区の平安を祈る。	C
	50	8	お薬師祭り 春・秋の年2回 薬師堂	馬場地区にある薬師堂の「お薬師さん」をご開帳して、春と秋地区民がお供え、参拝をする。	B
	50	15	土用祈祷 土用に入った最初の日曜 馬場集会所	土用に入った最初の日曜日世話人が集会所に集まり、近くの綾延神社で虫送り、虫封じのご祈祷をして地区境に虫封じの札を立てる。	B
	50	18	山の神祭り 1月4日 筋違集会所	朝8時から集会所において山の神開きの神事を行い、地区民がお参りに来ると同時に、正月飾りをおろし持参してはやす。	B
	50	32	社日祭(春・秋) 立春・立秋から 5回目の戌の日 筋違 社日さん	地区内に祀る社日さんの注連縄の張替えお供えをして、地区民がお参りする。	B
	50	19	延命地藏祭り 8月23日 延命地藏尊	地藏盆に地区内にある延命地藏尊の着せ替えやお供えをして地区民がお参りをする。	B
	50	1・18	とうとうさん 1月15日前の日曜 (1月15日) 地区内水田	はやす前の週の日曜日に世話人やPTA等が竹でとうとう飾りの枠を組み、こもを巻く。地域の子もたちは各家庭を回り、お飾りさんを集める。はやす日は各戸早朝より集まりはやす。その後残り火でお餅を焼いて食べ1年間の無病息災を祈る。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	50	26	たのもさん 9月上旬 西長野集会所	旧暦8月1日に豊作を祈る行事として各家庭で行われていたが、現在は各家庭で行われないので、西長野老人クラブが地元の子ども達を集め伝承行事として、色とりどりの練った米粉で人形や動物つくりを伝えている。	C
	50	6	お大師講 毎月20日	以前は毎月20日頭屋に集まり般若心経や御詠歌を唱えていたが、数年前から地区内各家で毎月順番に掛け軸を回し、20日にお霊供膳を上げお参りして次の頭屋へ回す。	B
	50	8	お荒神さん祭り 4月・9月 辻堂お荒神さん	地区内を東、西、北の3組に分け年当番として、地区内にあるお荒神さんのお祭りを春・秋年2回行う。祭りの3日前から世話組が清掃や注連縄の張替えや幟立てを行い、当日は地区内の人がお参りする。	B
	50	27	お亥の子さん 11月最初の亥の日 (旧10月の亥の日)	11月最初の亥の日、秋の収穫が終わって神に感謝する行事で、地区内の小、中学生がホテと言う藁を縄で巻いたものを持って集まり、亥の子唄を唄いながら家の庭先でホテを打ち、各家を回る。以前は男子の行事であったが、近年は子どもが少なく男女共同でしている。	B
	50	19	お地藏さん祭り 8月23日に近い土曜 地区の地藏さん	お地藏さんに御霊供膳を供えて午後6時頃から地域の有志が般若心経を唱え、その後地区民が広場に集まり盆踊りを踊る。	A
	50	6	綾延神社の祭礼行事と 頭屋制度 綾延神社	頭屋の選定は、その年の頭元地区(集落)内より選定して8月中旬に神社へ報告する。神社では9月1日に神前に報告し、社掲示板に掲示する。元は田野郷六千石、11ヶ村を6頭に分けていたが、後に9大字4頭になり、昭和33年以降は田野上方と北田野で交互に担当する。頭元地区の関係者は事前に注連縄をなう等の準備をし、当日の朝に注連竹に用いる高さ10m程の竹を刈り、神社より必要な道具類を運ぶ。門口に穴を掘って注連竹を立て、根元は薦で囲って砂を入れる。注連縄は左縄と右縄を合わせた綾じめとする。お仮屋は間口1間、奥行4尺5寸の組み立て式で、昭和37年より中断していたものを平成15年より復活している。準備が整うと、宮司が棟の榊を「ひろもぎ」に綾延神社の神霊を勧請し、お仮屋にて祭祀を行う。祭り終了後は翌日注連おろしの神事を行い、勧請した神を神社へ送り返した後に諸施設を取り除け焼却する。(市) [詳細調査報告15参照]	E
	50	30	綾延神社祭礼 10月第3日曜 綾延神社 綾延神社殿中奴保存会、 綾延神社獅子舞保存会	殿中奴、ムカデ獅子が出る。奴行列は15人で構成し、並び順は鉄箱(2人)、長刀(1人)、大鳥毛(2人)、小鳥毛(2人)、熊毛(白毛4人)、熊毛(黒毛4人)。別に道具裁許2人が袴、袴姿で指図する。先ず、神門前より境内に走り込みを行い、列を整えて腰を下ろす。次に鉄箱(オハコ)が所作を行った後に長刀が立ち上がり「シー」の掛け声に合わせて大鳥毛以下が順次に毛槍を立てて構える。長刀の「エーシーンノエー」の掛け声に対し毛槍は「エーヨーイトナー」と返し、次は逆の掛け声となる。これを2度行って1回が終了、神前で行った後、お旅所へ向けて神門内で行い、その後門くぐりとなる。毛槍を高く持ち上げた後に姿勢をかかめて背中にて毛槍を支え門を走り抜ける。なお、参道では3~4回程度行い、300m先のお旅所へ入る。衣装は、鉄箱は柄の着物に角帯、鉢巻、長刀以下は黒無地の着物に角帯、鉢巻となっている。(市)	A
	51	18	お日待ち 1月1日 来見円通寺庵	元旦の朝、自治会役員、社寺委員、地区内各組評議員が集まり、円通寺庵に僧侶を迎え、経読をして1年間の家内安全、五穀豊穡を祈願する。	B
	51	8	お般若さん 1月第3日曜 来見円通寺庵、各戸	円通寺庵に僧侶を招き、般若経の入った櫃の前で祈祷をし、家内安全、無病息災を祈願する。その後2組に分かれ地区内各戸を回り、家の人は櫃の下をくぐり厄除けと家内安全、無病息災を祈る。	B
	51	15	夏越祭(輪ごせさん) 7月 喜多留水神社	夏越祭の数日前に神社から人形(ひとがた)を刷った紙が家族の人数配られ、この紙に家内一同の名前や年齢を書き自分の体をなでて、当日神社に納め、神社の作っている茅の輪をくぐり参拝して夏に負けないように無病息災を祈願する。	B
	51	16	来見の雨乞い行事 8月24日(孟蘭盆) 水溜地藏	水溜地藏は雨乞い地藏で、8月24日の孟蘭盆(地藏盆)に地区の子どもや大人が集まり、両手に赤と緑の扇子を持ち手先で回転させながら、輪になって踊る。この踊りは、来見トンカカはん踊りといい、400年余り前、水見高尾城主高橋美濃守が田畑を開拓した時から身分の隔なく、豊年と雨乞いを祈願して踊ってきたものである。	C

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
西条市	51	19	石経地藏祭り 8月24日 石経石仏地藏	孟蘭盆(地藏盆)の夕方から地区民が石仏地藏に集まり、皆で般若心経を唱える。その後集会所に集まり盆踊りを全員で行う。	A
	51	15	土用祈祷 7月19日 志川薬師堂	志川薬師堂に地区内にある安養寺、安楽寺の二つの寺院の僧侶を招き、自治会役員、世話人が集まり虫除けと暑い夏を元気で過ごせるよう家内安全、五穀豊穣を祈祷する。地域の人も参拝する。	B
	52	8	お般若さん 1月15日 集会所	集会所に地区民が集まり、大般若経の入った櫃の前に祭壇を作り、鞍瀬地区に檀家を持つ3ヶ寺の僧侶3人が大般若経100冊を転読する。	B
	52	30	磐根神社祭礼 10月第3日曜 磐根神社 磐根神社毛槍投げ奴保存会	神事後、獅子舞2組が先導、次に毛槍投げ奴が音頭に合わせ毛槍を投げ合いながら進み、境内を一周して約200m先の御旅所まで進む。奴行列は、鉄箱2箱4人、長刀一振2人一組、その後一番奴～四番奴まで総勢22人が続く。各番は毛槍2本と4人一組で構成され後列の2人が槍を持つ。投げる毛槍の重さは3.5kg、長さ4.1m、一番奴はチャボの羽、二番奴以降は白馬の尻尾が使われている。衣装は「鞍」の字と「瀬」の字の法被、足元は茶と青の脚絆、白足袋にわらじ、胴には脇差の衣装。一番奴2人の独特の囃しに合わせ、ゆっくり一歩ずつ動きを止め、槍を持ち腰と槍をひねり、八歩進むと前列左の者が右の者に合図を送り、後列の者はこれを見ながら動作を合わせ、毛槍を投げる合図で5m程前の者に毛槍を垂直に立てたまま投げわたし、槍を投げ渡すと片足飛びで受け取った者の前方へ進んで行く。急速な過疎高齢化と人口減が進み、地区には子ども、若者がいなく、現在は50～80代の高齢者10人程度と丹原西中学校の生徒の応援を得て何とか行事を行っているのが現状である。丹原西中学校では地元の伝統芸能の伝承として学習し、生徒全員で毎年運動会で披露している。神事後、神輿渡御の露払いとして、大太鼓・しめ太鼓と先導する鐘に合わせ雌雄2頭の獅子舞が境内を一周した後御旅所まで先導する。ムカデ獅子、荒獅子ともいう。雌雄のユタンの中に6～7人入り交代で頭を使う。御旅所での獅子舞は「寝屋獅子」で獅子頭は木の削り貫きで重い。若者の多いときは、独身者は奴、既婚者は獅子舞と分かれていた。(市)〔詳細調査報告20参照〕	C
	52	15	夏越祭 7月中旬 諏訪・和霊神社	7月に入り事前に神社総代より各戸に家族の人数分人形(ひとがた)を配る。それに各家庭で名前と年齢を書き自分の体をなでる。祭り前、神社総代が人形を集め、当日神社に納め宮司が祈祷をする。地区民は茅の輪をくぐり参拝をして無病息災を祈る。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	53	9	吹揚神社春祭 5月10日 吹揚神社・今治城	市内の有志が集まり実施。神輿は軽トラックで巡行。乃万地区などから集まった継獅子舞が奉納される。	B
	53	29	四国霊場お札流し 今治市沖	今治市公会堂で祈願法要の後、市公会堂から港まで威光行列し、今治港から海上に出て、東予地域にある12の霊場の納札類を流す。	C
	53	19	薬師縁日 旧6月7日 東禅寺	薬師盆。今治地方で一番早い夏祭。真言宗12か寺の僧侶が参集し、大般若経を輪読して法要する。近年露店は少ない。	A
	54	35	大浜八幡神社秋季例大祭 10月第2日曜(10月10日) 大浜八幡神社	権伝馬が出る。2艘の伝馬船それぞれの船首にはボンデンを持った男児、船尾には剣権を持った男子の踊り子が1人ずつ位置し舞い踊る。由来は不詳であるが、伊予水軍の戦勝祈願や戦勝報告の名残といわれる。獅子舞は2人立ち獅子1頭による舞い。	A
	54	19	流れ灌生・流燈会 8月18日 城慶寺	施餓鬼供養のあと、献灯を海に流す。	A
	55	8	鳥生三島神社春季例大祭 5月第2日曜 鳥生三島神社	継獅子が奉納される。鳥生獅子連は近年娘獅子が人気である。令和2年及び3年は神事のみ開催。(県)	B
	55	8	三島神社祇園祭 (祇園さん) 旧6月14日 三島神社	14日は宵祭りで、茅の輪くぐりと祇園講お祓いがある。	A
	55	19	郷のお地藏さん (郷の地藏尊の縁日) 8月23日 来島山付属寺	眼病に御利益があるという地藏があり地藏盆に縁日が出る。盆踊りが行われる。	A
	55	2・8	衣干八幡神社春の例大祭 5月第2日曜 横田地区	氏子は横田地区住民である。大祭を運営するための頭屋が以前はあったが、数年前に自然消滅した形となっている。頭屋はなくなったが、氏子の一部が境内の草刈りやしめ縄づくりなどは行っている。鳥生部落の多くが同日に鳥生三嶋神社例大祭を行うため、衣干神社の宮出しは早朝の午前7時となっている。神輿は子供神輿で、担ぎ手は小学生である(軽トラで巡幸)。令和2~4年は神事のみ開催し、5年は通常開催。	B
	55	2・8	男山八幡神社例大祭 10月第2日曜 男山八幡神社 ・広紹寺地区	鳥生地区の中でも、広紹寺地区と横田地区は三嶋神社の二重氏子の形態をとらない。この例大祭には、広紹寺地区住民約70戸が参加対象となり、子供神輿を小学生と大人が担いで地区内を巡幸する。昭和戦前には祭礼を運営するための頭田(とうでん)が存在していて、必要経費の出納簿が社殿に現存する。また、その名残で、同地区は前組・後組という2つのお頭組織に分かれている。令和2~4年は神事のみ開催し、5年は通常開催。	B
	55	2・8	椿森神社春の例大祭 5月第2日曜 椿森神社・喜田村地区	大・小2基(大人・子供)の神輿が地区内を巡幸する。御旅所はない。祭典前に、頭屋が分け御霊を持参し、新調して次の頭屋が各家々へ持ち帰る。かつて、沖の比岐島で柴刈りが行われていた頃は、それを売った財源をお頭の運営費にあて、頭屋が盛んに行われていた時期があった。令和2~4年は神事のみ開催し、5年は通常開催。	A
	55 56 57 58 59	29	いっかしょさん 毎月のお茶湯日 国分寺から21ヶ寺	今治領内に設けられた21か寺詣り。国分寺をふり出しに21番の東村大師堂の参拝で終わる。行程33キロ。「いっかしょさん」は「21か所さん」がなまったものである。	C
	56	8	国分春日神社例大祭 5月4日~5日 春日神社・国分地区 春日会	国分春日神社は国分寺の境内に隣接し、かつて神仏習合の時代は国分寺が別当で管理していた。国分地区住民有志で組織される親睦団体「春日会」が大祭を運営する。4日に祭典を行って神輿の宮出しをし、5日に宮入を行う。秋祭りの際、拝殿でお頭渡しを行う。	A
57	12	宮島さん飾り舟 旧6月17日 網敷天満宮	天満宮境内に鎮座する厳島神社の十七夜祭である。この日、その年に男児が生まれた家では、麦わらで飾り舟を作り、夕刻厳島社の前の砂浜に運びに来て、灯をともし、潮に浮かべて流す。〔詳細調査報告26参照〕	A	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	57	19	桜井の盆行事 8月16日 桜井浜漁港前	三味線と締太鼓の演奏に合わせて踊るひょんこや踊りが奉納される。	C
	57	8	綱敷天満宮祭 5月5日 綱敷天満宮	獅子舞と神輿が出る。	A
	58	8	上徳三嶋神社例祭 旧1月、5月5日、 夏の土用前後の日曜、 10月体育の日 上徳三嶋神社	御先様は旧暦1月、春祭・子供神輿は5月5日に開かれる。夏土用祈禱は土用の前後の日曜日に老人会（土木総代）が主に開く。秋祭・子供神輿は10月の体育の日に行われる。	A
	58	8	美保神社例祭 5月10日、10月10日 美保神社	春祭と秋祭が行われる。春祭では、大祭及び神楽、秋祭では大祭と神楽に加えて子供神輿が町内を廻る。	A
	58	8	堀部神社例祭 堀部神社	大祭及び神楽が行われる。	A
	58	19	西方寺の大施餓鬼 8月17日 西方寺	大施餓鬼が行われる。	A
	58	27	亥の子さん 11月亥の日 富田村平山	男の子が生まれた家を宿にして、座敷に亥の子さん3体、みかんやお米等を飾る。子どもたちが亥の子1体につき10人～15人で各家庭を回り、亥の子唄を歌いながら亥の子さんを突いて回る。	A
	58	1・19	万灯祭・お盆 8月15日～16日 富田村・頓田川	午後4時ころから地域の家々を回り、万灯に使う麦わらを1束ずつもらい、麦わらが無い家ではお金をもらって子ども達にお菓子を買って与える。午後6時頃から頓田川土手道で、集めてきた麦わらや七夕さんの竹や土手の松の木など燃えやすいものを寄せて点火する。	A
	58	15	虫送り 7月15日 農村地域	田植え後の農休日の前中に、子どもたちが竹に札を付け町谷地区内の農道を回りながら練り歩く。行列を終えたら、歓喜寺の外で太鼓と鐘を交互に打ち鳴らす。	D
	58	27	亥の子さん (ごうりんさん) 11月亥の日	男の子が生まれた家が宿になる。田の稲株を掘って駄賃をもらい、お菓子やみかんを買って子どもや各戸に配る。五輪さんの石をわら縄で結んだ端を、数人の子どもが持ち上下に振り、亥の子さんの歌を歌いながら地面をつく。	C
	58	19	真光寺の施餓鬼 8月23日 真光寺	盆踊りがある。弘法大師が3月21日に入定したことから毎月21日はお大師講があり、各戸の女性の長が出る。	A
	58	1・19	まんど盆	七夕の笹と麦わらを集める。まんど小屋を浜に建てる。	D
	58	8	東村三嶋神社例祭 5月第2日曜、 7月30日～8月初め、 10月第2日曜、11月下旬 東村三嶋神社	春の祭は5月第2日曜に行われる。夏輪ごしは8月初めや7月30日に行われ、チガヤを輪にする。神楽も奉納される。秋大祭は10月第2日曜や10月10日に行われる。神輿は大人2基子供2基の4基であり、旧氏は70軒存在する。	A
	59	ウ	五人主様 11月第3日曜	五人主剣道大会がある。	B
60	8	大須伎神社例祭 5月連休 (日曜。宮司と相談して開催)	神輿の渡御がある。秋の祭では太鼓台も出る。	A	
61	19	宅間の盆行事 8月14日～16日 大須伎神社	古くから伝わる木山音頭を太鼓に合わせて踊る。	C	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	61	9・37	野間神社春祭り 5月3日～4日 野間神社境内	野間神社は、旧松山藩野間郡の総氏神であるので、乃万地区の六つの獅子のうち、阿方を除く五つの獅子舞(宅間、野間、延喜、矢田)が奉納される。高い石段を舞台としているのが特徴である。また、奴、船神輿なども出る。今治では従来5月10日に統一祭りをしてきたが、乃万地区の六神神社では平成6年から3日や3～4日の両日に変えている。(県)	A
	61	9	野間神社秋祭り 10月8日～15日 野間神社境内	鳳凰をかたどった藁御輿を子どもたちが担ぎ、各戸を巡回して甘酒の迎を受ける。藁神輿は「わらごし」ともいい、甘酒の迎を受けることから「甘酒祭り」ともいう。神輿渡御の前に大名行列の奴の振り込み、藁神輿、大西町紺原の御舟も行われ、祭り全体に古式の名残を多く留めている。(市)	A
	61	8	阿方清水天満宮春祭り 5月3日～4日 阿方清水天満宮	獅子舞が奉納される。寝獅子・昇り獅子など61曲を演じる。(県)	A
	61	8	荒木八幡神社春祭り 5月3日～4日 荒木八幡神社	獅子舞が奉納される。芸獅子と立獅子の2種類がある。	A
	61	8	延喜八幡宮春祭り 5月3日～4日 延喜八幡宮	獅子舞が奉納される。三継ぎ獅子を中心に多くの演目がある。(県)	A
	61	8	矢田三島神社春祭り 5月3日～4日 矢田三島神社	継獅子が奉納される。(県)	A
	61	8	野間日吉神宮春祭り 5月3日～4日 野間日吉神社	継獅子が奉納される。(県)	A
	61	19	延喜観音大縁日 8月25日前後	今治地方最後の夏祭りである。盆踊りと出店が出る。	A
	62	8	真名井神社の春の例大祭 5月2日～3日 真名井神社境内・杣田地区	玉生八幡神社が、もともと北郷地区村々の総氏神だった名残で、杣田は波止浜地区であるが波方の玉生八幡神社宮司が祭典をとりしきっている。春の例大祭で、祭典は2日に行い、3日に獅子舞奉納や神輿巡幸の神幸祭が行われている。	A
	62	19・23	円蔵寺の施餓鬼 8月～9月 (寺総代と相談して決定)	円蔵寺は黄檗宗の寺院で、波止浜港の渡し場そばにある。かつては檀家以外にも地区をあげた行事として、波止浜地区住民らがこの施餓鬼に参詣し、露店が出るなどして賑わった。もともと8月に行っていたが、酷暑を避けるため9月とし、寺総代と相談して毎年日程を決めているという。令和5年は寺総代が代わり、8月22日に施餓鬼供養の一環で花火を打ち上げた。なお、同寺境内には、太平洋戦争末期の今治空襲で亡くなった女子学徒24名の慰霊碑「殉職女子学徒の碑」があり、この施餓鬼法要で供養を行っている。	B
	62	8	龍神社春の例大祭 5月3日 龍神社・波止浜・地堀・中堀	大神輿、子供神輿の宮出しに合わせて、獅子舞が奉納される。神輿は波止浜地区(波止浜、地堀、中堀)を巡幸し、渡し場とハッピープラザを御旅所とする。現在は祭礼を支えるお頭さんのシステムはない。現宮司が祭典をとりしきる時には、すでに失われていたという。	A
	62	8	巖島神社春の例大祭 5月3日 巖島神社・高部地区	高部地区内にある八王子神社の祭りと一緒に実施する。このため、2基の神輿は巖島神社分と八王子神社分となる。獅子舞が有名だが、神輿は担ぎ手不足のため、子供神輿を大人用として使用しており、サイズが小さい。獅子舞奉納と併せて、巫女4名が太鼓に合わせて鈴の舞を奉納する。祭典は5月2日に行う。	A
	63	8	美保神社の祭り 2月10日 来島・小島	来島漁港の魚霊塔前で神事を行い、漁協関係者出席のもと供養祭を行う。かつては漁船を沖に出して、海上でお祓いを行っていた。同日、小島の美保神社でもお祭りがある。高齢化の限界集落のため、党内の杵築・巖島・三貴神社など島内すべての神社のお祭りも合わせて行うようになった。参列者が足腰が悪いのに配慮して、杵築神社石段下で行っている。	C
	64	25	弓祈祷(お口開け) 1月第2日曜 客天神社	江戸時代の武芸の流れを汲むと伝えられる。最初に神前で祈りをした後、お椀とお皿だけで中身の無いお膳が出て、それを食べるまねをする。「大前」「中立」「弓関」の三人の射手が狙う的の裏には「鬼」と書かれてある。	A
64	8・19	土用祈祷 夏の土用入り お堂	お堂に部落の人が集まり、土用の日に水があるように、稲が病害虫にやられないように祈願する。	A	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今 治 市	64	8	矢矧神社おこもり 6月中～下旬の田植えの 終わった翌日 本郷・宮の窪地区	米の豊穰を祈る行事。各戸から1名ずつ氏神に集まり、宮司の祈祷を受けたあと、手料理と御神酒でおこもりする。その後祈祷を受けた札をシシャブの木やゴユブの木に付けて部落の四辻に立て、豊作を祈る。	A
	64 65 66	27	亥の子さん 11月亥の日 (旧10月亥の日)	ゴーリンサンと呼ぶ石製の亥の子を子どもたちがついてまわる。	A
	65	8	矢矧神社の春祭り 5月3日 矢矧神社	三段の継獅子が四組出る。上段の獅子子は、中の台の肩の上に立つだけでなく、横臥・回転などの曲芸を演じる。雌雄二つに分かれて家々を回って祝儀をもらっており、これを「ほいと獅子」と呼んでいる。ニワカは約120年前の藩政時代に豊作と家内安全を祈って始まった。決まった台本はなく、即興の演技と風刺の効いた台詞が特徴で、上方のにわか狂言の系統を引くものといわれる。	A
	66	15	百万遍(虫おくり) 7月20日	寺やお堂で百万遍の念仏をあげ、その後子どもたちが鉦と太鼓を叩きながら部落境まで虫送りする。	D
	66	15	輪ごし 7月15日	ひな形の紙に家族の名前と歳を書いて氏神へ持っていく。神社の社殿前につくられた麦わらの輪をくぐり無病息災を祈る。	A
	66	26	たのもさん 9月1日 朝倉全域	秋の豊作を願って、米粉を蒸した色団子で動物や花などを作る。	C
	66	17	多伎神社の笠鉦祭り 5月1日 多伎神社の笠鉦祭り	今治市山口では、5月1日15時から笠鉦祭りが行われる。江戸時代中期に山口地区で牛馬の疫病が流行して農家の大切な牛馬が多く死亡し、それ以後牛馬の疫病封じのために始まったとされる。笠鉦は、筐に産着を括ったごく素質なもので、当日山口地区の人々が持ち寄り、祈願祭の後(マーマイソカーカイト牛馬が繁盛するように)と唱えながら拝殿内を3回、社殿周辺を1回廻る。(市)〔詳細調査報告31参照〕	A
	66	8	多伎神社の春祭り 5月5日 多伎神社	古谷地区の獅子舞は大きな一体獅子で、真の迫力で知られ、師匠として指導に回っていたと言われる。「練り」「曲」等の他、四継の継獅子も行われる。	A
	66	19	下朝倉の盆行事 8月13日 村民グラウンド	木山音頭などが踊られる。	B
	67	8	熊野神社例祭 10月15日 (宮司と相談して開催)	現在は神事のみ行っている。午後に白鳥神社で神事後、熊野神社に移動して神事。	A
	67	8	石清水八幡神社例祭 4月第3日曜 (宮司と相談して開催)	神事と神輿を行っている。氏子は下鴨部、四村、五十嵐、中寺の一部。その他の郷からも神輿担ぎの手伝いがある。	A
	67	8	嶋御門神社・豫中神社 の例祭(春祭り) 5月10日 嶋御門神社・豫中神社	嶋御門神社から鴨部小学校の御旅所を経て、豫中神社へお神輿と獅子が舞う。	A
	67	19	畑寺の盆行事	盆踊りである畑寺よいしな踊りを踊る。けたのお地藏さんに雨ごいのお祈りをする と白蛇が出てきて、水が湧き出した池が出来た伝説がある。	C
	67 68 69 70	1 18 31	地祝いさん (とんどさん)	松の枝を立て、供物をして豊作を祈る。正月飾りを焼く。	A
	67 68 69 70	29	お大師講	月例で人々が寺に集まり、お勤め(経読や護摩祈願)を行う。お勤めの後、お茶を飲むことで地域の交流の場となる。	C
	67 68 69 70	1 19	まんど 8月14日 (8月14日～15日)	盆の精霊迎いの火祭りで「万灯」に由来する。今治市玉川町小鴨部では子供組と小鴨部子供組保存会が主体で行われ、8月14日夕方に小学4年生から中学2年生が「まんど山」に登り、集落から見えるように、麦わらサイト(松明)に点火する。中学2年生が「大将」を務める。かつては8月14日に迎え火の「迎えまんど」、15日に「送りまんど」を行っていたが、現在は14日のみ行われている。〔詳細調査報告2参照〕	C

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	67 68 69 70	19 20	七夕 8月	8月に入ると、2本の竹を切ってそれに短冊や細工した色紙に自分の願い事を書いて竹の幹に吊るして門先に立てる。縁側のテーブルに菓子、スイカ、夏野菜、おはぎ、米などをお供えし、7日まで飾って8日の朝に除ける。	A
	67 68 69 70 76 77	27	亥の子 11月亥の日 (旧10月亥の日)	ゴーリンサンと呼ぶ石製の亥の子を子どもたちがついてまわる。	C
	68	8	三島神社例祭 10月10日前後 三島神社	町内に点在する三島神社において神事が行われる。法界寺では春に子供神輿も出る。	A
	69	8	奈良原さん縁日 旧8月の丑・午の日 法界寺	法界寺の社務所の中で、家畜(牛や馬)や動物を飼っている人の祈禱をする。また、交通安全や健康祈願など緒祈願をする。	C
	69	8	奈良原さんの例祭 4月 奈良原山頂上の神社	日程は未定だが、毎年、奈良原山の桜が咲くころ、奈良原山頂上の神社の前で祈禱する。	C
	71	6	玉生八幡神社春の例大祭 5月第4日曜 玉生八幡神社・波方地区	大神輿は、数え歳41歳と61歳が担ぐ塗り輿と有志が担ぐ白木の神輿がある。塗り輿は御旅所までの輿である。白輿は海に投げ入れて清める習わしがあり、地区内巡幸時は地面に投げつけて壊すことが許される。ご神殿に帰るのは夜10時以降である。また、御旅所(波方地区集会所前)まで巡幸することもある。ギャル神輿もある。獅子舞(継獅子)も奉納される。例大祭に合わせて、氏子部落10地区の頭屋が分け御霊を各自の家へ祀る(かつては秋に実施)。1年ごとで頭屋は変わり、かつてはクジ引きで決めていた。例大祭の日、頭屋は各庭に幟を立てる。	A
	71	8	郷荒神社の春の例大祭 5月第4日曜 荒神社・郷地区	郷地区の荒神社は、神社庁に登録されない部落管理の神社である。このため、祭典は部落総代で企画し、玉生八幡神社へお願いして実施している。獅子舞はなく、神輿の巡幸だけを行っていたが、コロナ禍をへて通常開催となった令和5年に神輿の巡幸は行われなかった。	B
	71	8	大浦荒神社の春の例大祭 5月第4日曜 大浦荒神社境内	少子高齢化による担ぎ手不足で、神輿は子供神輿のサイズである。神輿は境内のみ巡幸し、地区内の巡幸は行っていない。以前は、大浦公民会を御旅所としていた。玉生八幡神社宮司が祭典をとりしきるが、同日は波方地域全体が春の大祭のため、大浦の宮出しは波方地域で最も早い早朝5時が慣例となっている。獅子舞はない。	B
	71	8 19	長泉寺施餓鬼 8月20日 長泉寺	地区総代があらかじめ各家々を回り、お供えの金を徴収。当日、19:00より大法要を執り行う。檀家らは位牌堂にお参りに来る。参道には露店の出店が見られる。長泉寺は真言宗豊山派。主に波方町内に檀家を有し、檀家ではないが同寺位牌堂に先祖位牌をまつる家もある。	A
	71	18	樋口部落大般若会 1月10日 持宝院と樋口地区	持宝院は天台宗寺門宗で檀家を有しないが、樋口部落との関係が密接である。大般若経の法会は、初金毘羅と併せてとりおこなっている。大般若経のお経を唱えた後、お経を載せた箱は樋口部落全体を地区の神社総代の世話で巡回する。初金毘羅は、同院がまつる金毘羅大権現の年初のお祭りで、もともと社は別の場所(現、海山城団地)にあったが、土砂崩れなどで崩壊したため持宝院境内に移設したという。	B
	71	6 8	素鷲神社秋のお祭り 10月最後の土曜 素鷲神社	境外社の新宮神社のお祭りとして併せて実施する。素鷲神社が所在する天王地区の住民が氏子で、その氏子は玉生八幡神社との二重氏子でもある。多いときは氏子が120軒あって、上中下の組に分かれていた。現在も上中下の頭元が集まって、祭典を行っている。	A
	71	8	潮早神社春の例大祭 5月第4日曜 樋口地区	大神輿2基(塗・白木)と子供神輿1基。白輿と子供神輿は御旅所まで巡幸。塗り輿は地区内を巡幸し、沢の大池で清めたり、地面に投げつけるなどして傷んだ状態でご神殿に帰ってくる。獅子舞(継獅子)も奉納される。	A
	71	18	庄畑八幡大神社の日待ち、月待ち 1月5日 庄畑八幡大神社・庄畑地区	庄畑八幡大神社は、樋口地区の3部落(庄畑・指尾・荒屋敷)が氏子。この3部落は潮早神社の氏子であり、二重氏子の形態をなす。当日は、3部落の頭元か評議員が神事に参加し、各部落軒数分のお札を持って帰る。古くは、神社におこもりする習慣があったという。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	72	8	白玉神社春の例大祭 5月第4日曜 白玉神社・小部地区	子供神輿1基と大神輿2基(白玉神社分・素鷲神社分)が巡幸。獅子舞も奉納される。大神輿は、地区の北と南で担ぎ手を分け、ともに地区内を巡幸。うち1基は漁船に乗せられ、海上渡御をして境外社の竜神社を御旅所とする。2基ともに海水に清め、地面に投げつけたりして、御神殿へ帰り着く際は損壊が激しい。大祭に先立つ前日(宵の宮)、岡地区2軒も頭屋が宮出しで使用する菰を持参する。これは、もともと白玉神社が岡地区にあったことに由来する。この菰が準備されないと、翌日の宮出しは行えない。	A
	72	8	御崎神社の春の例大祭 5月第4日曜 御崎神社	少子高齢化による担ぎ手不足で、近年は神輿1基が境内のみを巡幸する。本来の御旅所は宮崎公民館。波方国家石油ガス備蓄基地の建設工事中は、工事関係者が宮崎地区に多く滞在し、波方ターミナルの職員も動員して旧参道(ヤマモモのこみち)を神輿が巡幸したこともあった。獅子舞はない。	B
	72	8	濱田八幡神社の春の例大祭 5月第4日曜 濱田八幡神社	獅子舞が奉納され、塗輿の神輿1基が地区内を巡幸するが、コロナ禍をへて通常開催となった令和5年は担ぎ手不足等で神輿の巡幸は実施されなかった。神輿を海で清めることはしない。	B
	72	8	西浦荒神社の春の例大祭 5月第4日曜 西浦荒神社	少子高齢化による担ぎ手不足で、神輿は境内の石段下を御旅所として、地区内の巡幸は行われていない。獅子舞はないが、かつては玉生八幡神社の獅子舞が応援に来ることもあった。コロナ禍をへて令和5年に通常開催となったが、神輿は社殿前で御旅所祭をし、石段下までは巡幸できていない。	B
	72	8	貴布祢神社の春の例大祭 5月第4日曜 貴布祢神社	塗輿の神輿1基が地区内を巡幸する。神輿を海で清めることはしない。獅子舞はない。	A
	72	8	巖島神社の春の例大祭 5月第4日曜 巖島神社・養老地区	獅子舞は一時期絶えた時期もあったが、昭和55年頃に復活して現在にいたる。しかし、獅子舞の維持に重点が置かれたためか、神輿は子供神輿サイズでタイヤ付きの台車に乗せて地区内を巡幸している。御旅所は養老公民館。担ぎ手が多かった頃は、池で神輿を清めたりもしていたという。	B
	73	2・35	龍神社の例大祭 5月第3日曜 (5月19日) 龍神社	龍神社は雨の神、海の神、農業の神として崇敬され、特に松山藩の雨乞いの祈禱所となっていた。8:20頃より神事があり、9:00頃より境内にて獅子舞がある。その後獅子舞の先導で神輿の宮出しがある。大人神輿は1基、子供神輿は2基である。すぐ近くの海岸から、前日に組み立てられた獅子船と神輿船と宮司船の3隻が出る。獅子船の船上で獅子舞、三継ぎ・四継ぎの継獅子、餅つきの芸などが行われ、袋に入った餅が陸に向かって投げられる。そして、九王地藏堂にて獅子舞があり、四継ぎの継獅子も行われる。地藏堂横の参道では神輿が安置され、神事が行われる。その後、東側の山頂にある富山八幡神社を目指し、参道を通って神輿を担ぎ上げて神事を行う。11:30頃富山八幡神社を出発し、獅子連が迎えに来て獅子舞をしながら先導する。その後、神輿は各御旅所を回り、また新築の家など、事前に招待の連絡のあった所を回る。そして19:30頃宮入りが行われ、20:00頃解散となる。	A
	73	2	素鷲神社の例大祭 5月第3土曜 (5月19日) 素鷲神社	8:30頃から神事がある。9:00頃に神輿と船神輿の宮出しがあり、「やらめでたいな一」で始まる優雅な宮出しの歌「船みこし」は、古くから海運業など船に関わって生活していた紺原三軒屋地区の人達が、お祭り行事に海運の繁栄や、航海の安全・無事を祈願して、船神輿を素鷲神社に奉納したのが始まりで、200年ほどの歴史がある。船神輿は長さ6m、幅3m、高さ3.5mの屋形船風のもので、ぐるりには波模様の幕が張られ、船のとも、オモテには2体のデコ人形(大山祇神と白髪藤原佐理卿)が真向かいに座り、神輿の中と外で15名から20名がこれがかつぎ、10節余りある船歌の音頭により、そろりそろりとねり歩く。	A
	73	18	お般若 2月1日 安養寺	早朝より紺原地区内を、大般若経を入れた経箱が「おはんにゃあー」と声をかけ巡回し、地区内の人々がその下をくぐり、おかげをいただくという行事である。その後、安養寺において14:00頃から、諸災消除、身心堅固などのため祈禱が行われる。始まりは大正13年(1924)頃、当時の紺原婦人会の有志が浄財を集め始めた。	A
	73	2・30	大井八幡神社例大祭 5月第3土曜 (5月第3日曜の属す土日) 大井八幡大神社	境内で、9:30頃から奴、獅子舞、ダイバ、四継ぎ、三継ぎが奉納され、10:00頃宮出しが行われる。宮出しは大人神輿2基と子供神輿が出る。それから祭りが進行して、石段で二継ぎ、さんばそう、餅つきが奉納され、餅なげの後、宮脇町のやぐら、奴、獅子、神輿が1列に並ぶ。その後、石段の下の広場で神輿の鉢合わせや獅子舞、キツネの舞等が奉納され、大人神輿1基は大井浜、新町地区を、もう1基は宮脇地区を回り、24:00頃宮入りが行われる。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	73	6	お頭さん 5月第3金曜、 5月第3日曜、 10月10日、12月10日 大井八幡大神社、宮神社、 諏訪神社、山の神さん	5月第3金曜日に大井八幡大神社で部落総代と氏子総代、5月第3日曜日に宮神社で部落総代、10月10日に諏訪神社で部落3役と氏子総代、12月10日に山の神さんで部落総代により献上物を供え、宮司による神事があり、各側の住民で、酒と料理により直会がある。	A
	73	19	お大師講 8月21日 丸山大師堂	15:00から丸山大師堂において、法隆寺の住職と担当の小組合によりお祈りをしている。	A
	73	27	亥の子 11月の亥の日	亥の子は子どもの行事である。宮脇では一部を除いて全域で、11月の亥の日にごうりんさん(石)をつけて回り、五穀豊穡、家内安全を祈願する。	B
	74	8	貴布祢神社例大祭 5月第3日曜(5月18日) 貴布祢神社	5月第3日曜日8:00に例大祭ご祈祷の神事があり、8:30宮出しがある。獅子が露払いをし御旅所まで神輿を先導する。神輿が部落内を巡る前に、神社石段下で天狗が刀や笹を持って厄払いの舞をし、その後、青年団獅子連と児童で舞を神社に奉納する。余興として、獅子舞、餅まき、キツネの舞、立ち芸(三継ぎ、四継ぎ、五継ぎ)などがある。終わると担ぎ夫にて担ぎ、大人神輿1基、子供神輿2基にて部落内を巡行する。大人神輿の運行順序は、まず海へ塩こりに行き、その後、新開西→新開東→立団地→中脇→御城谷→奥の内(奥の内団地)→立と回り、22:00頃宮入する。	A
	74	8	例大祭 5月第3日曜 賀茂神社・天神社 ・大河内八幡神社	3神社の順回り。宮司による神事後、8:00頃獅子を先頭に宮出しをする。その後獅子舞、ダイバ、オヤス、キツネ、継獅子等が奉納される。飲食後、宮出し神社を大人神輿1体と子供神輿1基が出発し、各神社を巡回して、夕方に宮入をする。	C
	74	9	碓掛天満宮の春祭り 5月第3日曜(5月18日) 碓掛天満宮	9:00に宮司の祝辞後、やっこ、きつね、獅子連、神輿の順で境内を3回りして、やっこをふり獅子舞をしながら道中を進み、ぎおんさんの広場でやっこ、きつね、継獅子舞などを披露し、最後にお菓子や餅なげが終わると、大人神輿1基が各側回しで出て行き、20:00頃に宮入りをする。	A
	74	8	大山八幡神社の春祭り 5月第3日曜(5月18日) 大山八幡神社	10:00から宮出しの神事が行われ、氏子の五穀豊穡、無病息災、家内安全などを祈念し、獅子連による三継ぎ、四継ぎなどの獅子舞の演舞が奉納された後、餅まきが行われ宮出しの行事は終了する。その後大人神輿1基と子供神輿1基が繰り出し、各地区の御旅所で獅子舞の演舞を披露しながら部落内を練り歩き、20:00頃に宮入りして春祭りは終了する。	A
	74	8	おはんにゃあ 1月10日 金毘羅大権現	海上安全、交通安全、家内安全の神様として崇敬されており、毎年1月10日に、大般若経を入れた箱を老人会の有志が担いで、「おはんにゃあさんが来たぞ!」と呼んで地区を回り、住民は箱の下をくぐり、その年の無病息災を願う。回り終わると、金毘羅さんで真言宗の僧侶たちにより、大般若経が読経される。	A
	74	27	亥の子 旧10月の亥の日	旧暦10月の亥の日に祝う男児の行事であり、年により2回の時と3回の時があったが今は1回のみである。	B
	74	8	例大祭 5月第3日曜(5月19日) 間所神社・衣笠神社	間所神社において宮司による神事後、9:00頃宮出しをする。飲食後、神社を大人神輿1体が出発し、衣笠神社を巡回して、夕方に宮入りをする。	C
	74	6	御当(おとうさん) 4月29日、10月第1日曜、 10月第3日曜、 10月第4日曜 加茂神社、大河内八幡神社、 天神社、間所神社、衣笠神社	加茂神社は4月29日、大河内八幡神社は10月の第1日曜日、天神社では10月の第3日曜日、間所神社・衣笠神社は10月の第4日曜日に行われる。祭壇に献上物を供え、宮司の神事により神の加護を願い終わると、酒、肴で飲食し、祈願の成就を祈る。御当元の今後1年間の家内安全、繁栄等のご加護を頂いたお礼として、飲食等の経費の大半を出資するのが通常である。	A
	74	8	おこもり 6月第1日曜(5月18日) 客神社	上側の宮神社で行っている。40年ほど前は、重箱に酒のあてを入れて持って行ったが、今は、盛り合わせて直会をしている。	A
	74	18	お日待ち 1月10日 成道寺	おはんにゃあの代わりとして、お日待ちという名で住職と寺総代で実施している。お寺の正月のことであり、餅を焼いて食べる。	A
74	34	お大師講 8月20日 大師堂	大師堂で毎年8月20日にお祈りをしている。昭和30年代後半位までは盆踊りをしていた。お堂の横には江戸時代に石で建てられた常夜灯がある。	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	75	8	おこもり(非農家) 6月15日～30日の間の1日	組織の者が神託に参拝し神事を行い、町内安全の関札と各戸への守札を受けたあと、当番の家で飲食を行う。	B
	75	8	おこもり(農家) 田植え終了後の6月15日～30日の間の1日	組織の者が神託に参拝し神事を行い、町内安全の関札と各戸への守札を受けたあと、当番の家で飲食を行う。	A
	75	17	さんばい上げ 田植えの後各農家	穀神祭り。豊作を祈願する家々で祝ったり、部落によってはおこもりをする。	B
	75	18	初祈祷 1月頭各地区社寺	部落単位で定日があり、社寺で神仏事を行う。地区全員または代表者が参列する。	A
	75	18	お日待ち 1月5日～6日 当番の家	当番の家に祭壇を設け、宮司を迎え、夕、夜中、朝の3回神事を行う。全戸参列し、夜中の神事を終えると参加者は一旦帰宅し、翌朝の神事に再び参列し、神事終了後飲食し散会する。	B
	75	18	とんど 1月15日	各部落ごとに河原、海岸、その他比較的平らなところで正月のしめ飾り、古神札、その他を持ち寄って燃やす行事。	A
	75	2・10・22	加茂神社・八幡神社の秋季例大祭 10月第4日曜とその前日(10月15日～16日) 加茂神社・八幡神社	加茂神社と八幡神社の秋季例大祭。牛鬼(町)、お供馬(町内愛馬会)、獅子舞(池原)、浦安の舞(女子中学生)、太鼓(こぎく連)、だんじり(町内、町、浜)、神輿5台(町内の41才男子、町、北浜、田之尻)が出る。獅子舞はいずれも継獅子を主体としたものである。演目は「祭り」、「狐ばらい」、「悪魔ばらい」、「二段獅子」、「おこけ」、「三段獅子」、「おやす」、「口上」、「帰り」と続く。(県)〔詳細調査報告22参照〕	A
	75	22	厳島神社の秋季例大祭 10月第5日曜(10月9日～10日) 厳島神社	子供相撲、牛鬼(加茂神社、末社、厳島神社の3体)が出る。牛鬼は竹製の箆で頭を作り、10月9日、10日加茂神社の宮出しに参加する。	A
	75	8	砥鹿神社の秋季例大祭 10月第3土曜 砥鹿神社	神輿が出る。	A
	75	8	荒神社の秋季例大祭 10月11日 荒神社	子供神輿と子供相撲がある。	A
	75	8	長津神社の秋季例大祭 10月第4月曜 長津神社	神輿が出る。	A
	75	8	八幡神社の秋季例大祭 10月第5日曜または11月第1日曜 八幡神社	神輿が出る。	A
	75	25	ヒキメ初祈祷 1月10日 客神社	当日午後1時、神事をし、境内にて射手3名による弓射を行い、終わると飲食をし、おこもりを行う。的は大小24で、割竹で直径1.45m(大)、78cm(小)の輪を作り、紙を張って鬼と書く。矢数1人2本3回射る。歩射の収支三献酒盃の作法あり。	A
	75	ウ	日輪寺縁日(厄よけ祭) 2月節分の日 日輪寺	厄年に当たる善男善女が参拝し厄除祈願をする。	A
	75	19	女施餓鬼 8月15日～24日 遍照院、掌禅寺	お盆の行事として各地区の寺、地蔵の前の広場で盆踊りを踊る。遍照院、掌禅寺では女餓鬼が行われ、先祖を供養する。	A
	75	15	厄よけ祭 2月節分の日 遍照院	境内の入り口で求めた草履をはいて本堂で区願した後、「ごまだん」で草履を燃やして厄払い。午後からは「福は内、鬼も内」と紅白の飾を厄年の男女がまく。菊間の出身者は一堂に集まる。	A
76	17	さんばい上げ 田植えの後各農家	穀神祭り。豊作を祈願する家々で祝ったり、部落によってはおこもりをする。	B	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今 治 市	76	18	初祈祷 1月頭 各地区社寺	部落単位で定日があり、社寺で神仏事を行い、地区全員または代表者が参列し、行事を行う。	A
	76	15	虫祈祷(土用祈祷) 夏の土用入りの日 種、円福寺、佐方、長本寺	農家が寺に集まり、害虫を降伏させる。祈祷で念仏を唱える。寺からもらったお札を農家の各戸に配り、他に建てて虫除けとする。	A
	76	8	秋祭り 10月第2日曜 (10月9日～10日) 亀山八幡神社・加茂	神輿2基(川向、里、町、浜)と子供神輿3基(川向、里、町)が出る。奉納される獅子舞は、いずれも継獅子を主体としたものである。演目は、「祭り」、「狐ばらい」、「悪魔ばらい」、「二段獅子」、「おこけ」、「三段獅子」、「おやす」、「口上」、「帰り」と続く。	A
	76	8	秋祭り 10月9日～10日 貴布禰神社、大河内神社、 正八幡神社	奉納される獅子舞は、継獅子を主体としたものである。演目は「祭り」、「狐ばらい」、「悪魔ばらい」、「二段獅子」、「おこけ」、「三段獅子」、「おやす」、「口上」、「帰り」と続く。	A
	76	23	高仙山の祭り 4月12日 高仙城跡	高仙山城主池原浜部の霊を弔う祭。東山大城寺の子どもや青年たちが、高仙城跡で相撲を取り、部落では「お客」をする。	C
	76	19	亀岡の盆行事 町民会館、 亀岡多目的集会所等	旧今治藩領内に広く分布している木山踊りと同一で手を上にあげて踊る。	B
	76 77	1 18	とんど 1月15日	各部落ごとに河原、海岸、その他比較的平らなところで正月のしめ飾り、古神札、その他を持ち寄って燃やす行事。	A
	76 77	8	おこもり(非農家) 1月5日～15日 (5月1日～6月15日) 当番の家	組織の者が神託に参拝し神事を行い、町内安全の関札と各戸への守札を受けたあと、当番の家で飲食を行う。	B
	76 77	8	おこもり(農家) 田植え終了後 (6月15日～30日) 当番の家	組内の者が神託に参拝し神事を行い、町内安全の関札と各戸への守札を受けたあと、当番の家で飲食を行う。	A
	77	エ	歌仙の滝詣り(お滝祭り) 3月21日(彼岸) 歌仙の滝	「流水灌頂」滝つぼからお札を流し新仏や先祖の供養をする。	B
	77	6	お頭 10月12日～14日	地区部落の人が神社に集まり、宮司により祈願する。頭元と寄り頭を選び、神事を終え、直会をする。	A
	77	18	初祈祷 1月頭 各地区社寺	部落単位で定日があり、社寺で神仏事を行い、地区全員又は代表者が参列し、行事を行う。	A
	77	18	お日待ち 1月5日～6日 当番の家	当番の家に祭壇を設け、宮司を迎え、夕、夜中、朝の3回神事を行う。全戸参列し、夜中の神事を終え参加者は一旦帰宅し、翌朝の神事に再び参列し、神事終了後飲食し散会する。	B
	78	1 18	とんどさん 1月15日 今治市吉海町仁江 (原八幡大神社氏子区域)	小正月である1月15日の午前7時、境内に準備した祭壇の前で祝詞を奏上して、しめ飾りや古い神札・お守りに点火し焼き納める神事。この火で焼いた餅を食べたり、火に当たって温まれば1年間無病息災でいられると言われている。現在は、他地域からも持ち込みがある。	B
	78	15	茅の輪くぐり・夏越祭 6月30日前後 (旧6月30日 ・12月31日) 吉海町仁江	吉海町仁江鎮座の原八幡大神社境内で、総代、青年会員が刈ってきた茅を用いて輪をつくり、約1週間設置する。この輪をくぐることで禊をして、半年の間、知らず知らずのうちに身についた罪やケガレを祓う行事。神事の伝承や復活を行う中、島内で見ることが出来なくなった「茅の輪くぐり」を復活しようという声が上がったので、令和元年から始めた。	B
	78	8	土用参り 大山祇神社	夏の土用の期間中に、吉海町泊地区及び田浦地区の住民が、それぞれの地区ごとにまとまって、大山祇神社を参拝し、五穀豊穣を祈る行事である。伯方大島大橋、大三島橋が整備されていなかった時代には、各地区の港から石船などで参拝していたが、整備後は車で参拝している。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	78	エ	常楽会・おねはん 2月15日(旧2月15日) 吉海町全域	「おねはん」と言われ、お釈迦様の命日(旧暦2月15日)に合わせて、大島の四ヶ寺、伯方島有津の西明寺を加えた五ヶ寺が毎年順番制で行う法要。それぞれの寺の作法で行われ、当日は、読経や誦詠、鈴の音が鳴り響く。	B
	78 79 80	28	巳正月 12月初巳の日 吉海町全域	12月の初巳の日に、新仏の出た家が行う法要。餅を墓前であぶり、引っ張り餅をする。	B
	78 79 80	19 33	新盆(あらぼん) 8月 吉海町全域	肉親が亡くなってから49日の忌明けの後、初めて迎えるお盆を新盆または初盆と呼ぶ。島内では、新盆に檀那寺の僧侶を迎えた読経供養をし、とぼしあげまでの3年間、8月1日～31日まで庭先に精霊棚を設け、高幡(たかばた)を立てて精霊をお迎えするとともに、施食供養をする。精霊棚には五色札(黒、白、黄、青、赤)を付け、水、白米、野菜等を小皿に入れてお供えし、8月13日～16日は毎日取りかえる。	A (真言宗の檀家に限る)
	78 79 80	19	施餓鬼 8月18ごろ (旧7月18日) 吉海町全域	島内4か寺及び有津、西明寺の僧侶で施餓鬼作法によって行われる。また、故人を施餓鬼で拝んでもらうには、世話人がいて勧誘して希望者を施餓鬼堂に祭り、僧侶が拝む。当夜は遺族や近所、知人が菓子等供え物をして参拝する。慰霊のため、信男信女の盆踊りが夜更けまで行われ、夜店、見物人多数で盛大である。	A
	78 80	9	宮島さん 旧6月17日 吉海町仁江・本庄	吉海町仁江鎮座の原八幡大神社境内社である厳島神社で例大祭を行い、氏子手作りの松明(柴灯サイト)に点火する。道中の田畑の虫除け(虫送り)と足元灯を兼ねて、幸港に鎮座する厳島神社まで歩いてお参りする。そこには露店が多数並び、島内随一のにぎやかな夏祭りであった。現在は、地元商工会青年部が伝統を守ろうと出店を続けている。戦後、「サイト行列」は途絶えていたが、平成10年、地元消防団協力のもと、約40年ぶりに一度だけ復活した。	B
	78 80	27	亥の子 旧10月最初の亥の日 吉海町 (福田、幸新田、八幡)	10月の「亥の日」の祝いを亥の子と言う。元来、男の子の行事で、畑を荒らす猪の子、つまり「もぐら」を追い払うために始められた行事であるという。ゴーリンさんと言う御影石製の石に鉄輪をはめて、これに引き綱を付けて四方八方から引き、石を上方に放り上げて地面に落とす。亥の子の前日ないし数日前から、亥の子大将の指示でゴーリンさんをきれいに洗い、塩で清めて亥の子宿の神棚に祭られる。亥の子石は、いわゆる神座(神の依り代)の性格を持っている。ゴーリンさんというのは「降臨さん」の意で、神霊の降臨する神座であったからであるという。子どもたちは、亥の子歌を歌いながら亥の子をつき歩く。	A
	79	17	夷様祭 4月第1土曜 吉海町棕名	吉海町棕名地区の漁業者を中心とした住民が、海の安全、大漁などをえびす様に祈願する行事である。棕名漁港を出港し、棕名地区の沖合を航行。旧長浜海水浴場で下船し、恵比寿神社まで行列をなして歩き、神社にて神事を執り行う。以前は、船を新調した際も行っていたが、現在は、年に一度、地方祭に併せて行うのみとなった。	B
	79	35	渦浦八幡宮の秋祭り (海上渡御) 10月10日～11日 吉海町棕名の海上 (渦浦八幡宮区域)	権伝馬・御輿御座船・曳き船の3艘が海上を練る行事である。樽を前後に据えた権伝馬では、前の樽上で剣の舞、後ろの樽上で權の舞を太鼓と音頭に合わせて舞い、御輿御座船の船首では獅子が舞う。昔、村上海賊が活躍した頃の、戦勝祈願や戦勝報告の参詣の名残であるといわれる。	B
	80	8	旧八幡新田村の分村行事 ・お通夜 旧正月に近い土曜の夜 (旧正月、5月、9月の吉日) 今治市吉海町八幡 (大亀八幡大神社氏子区域)	貞享5年辰の2月に名村(みょうむら)より八幡新田村(やわたしんでんむら)が分村したことに始まる。八幡新田村を開基し、名村より分村した時、田畑の分配について庄屋を始め、組頭、百姓が集まって大神の前で平等を誓い血判をして配分した。この誓いを破ったものに手玉の札を吞ませると死に至るとの言い伝えがあった。八幡氏が八幡八幡大神社に参集し、ご祈禱を執り行う。	B
	80	9 15	ぎおんさん 旧6月14日 吉海町幸新田氏子区域	海神社(幸新田)に、ぎおんさんを合祀していて、ぎおんさん当日まで胡瓜を食べずに祈願すると夏病にかからないという。胡瓜の切り口が、ぎおんさんの紋の形であると言われる。当日は、夕方より参拝者が多く、夜店もたくさん出る。幸新田の開基頃、悪疫がまん延したときこの神を迎え祭り祈願したところ、平癒したという。	A
80	30	田中神社の秋祭り 10月10日～11日 吉海町本庄 (田中神社氏子区域)	大名行列を模したもので、起源は不明であるが、江戸時代には既になされていたと言われている。16人の行列で、露祓いの陣笠、袴、弓矢、刀や毛槍を振る奴のいなど、古くからの様式をよく残しているが、時代の流れや少子化などの影響により、伝統の芸が簡略化されてゆく傾向にある。	C	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今 治 市	80	35	津倉海神社の秋祭り (海上渡御) 10月第2日曜 (10月10日～11日) 今治市吉海町本庄 (津倉地区)	吉海町本庄の津倉地区鎮座の海神社の例大祭で氏子区域内の神輿渡御を行う。道中、津倉海岸で神輿を船に乗せ、海上を練る。船の舳先と艫で子どもが舞を舞う。津倉は元禄の頃まで離れ小島で海運が盛んであった。中世には水軍の津倉洲城があり、この行事は中世武士、戦勝祝いの名残りとも言われる。少子高齢化で伝統文化の継承が難しい現状ではあるが、小学生がいる年には復活するという方法で続けている。	C
	81	2 35	宮窪秋祭り 10月スポーツの日前の日曜 (旧8月15日～17日) 尾形八幡大神・美保神社	宮窪町宮窪の尾形八幡大神で行う秋祭り。宮窪の4地区(以前は3地区)が順番にヤグラ、獅子、神輿と順序をつけ行事に参加。祭5日前の「御十日」(現在では1週間前の日曜日)には、幟が立ち、祭りの予行練習という意味もあって、美保神社前で飾着付けしたヤグラ太鼓、狐と獅子の舞を披露する。宮出しは、太鼓に合わせて舞い踊る獅子と狐が先頭、次に音頭に合わせてヤグラ太鼓、大人神輿に子供御輿と音頭に合わせて歓声をあげながら祝詞場へ行き、狐と獅子舞を披露する。午後には宮窪港から獅子・耶俱楽・神輿を船に乗せ船行列で土生の宮島さん(現在の黒住教)へ海上を渡御し上陸し、黒住教前と美保神社前で神輿のせり合い(けんか神輿)・狐と獅子の舞を行う。宮入りの朝は、獅子と子供御輿は地域を回って神酒取りを行い、家の家内息災等を祈った。午後からの宮入りは、成功開発事務所前から順序は宮出しの時と同じで、ゆっくりと練り歩き宮下橋まで来ると、獅子・ヤグラ・神輿は舞いや担ぎを止め祝詞場まで走り、2台の大人神輿は祝詞場に着くと神輿を担ぎ、宮出しの日より一段と激しいせり合い(けんか神輿)を行い、宮入となる。	B
	81	8	友浦秋祭り 10月スポーツの日前の日曜 (10月10日～11日) 小野八幡大神	宮窪町友浦の小野八幡大神で行う秋祭り。神輿と獅子が地域を練りまわり、音頭や舞を披露し、神輿に神酒を供え、家内息災等を祈った。現在は神輿は車に乗せて練っている。	B
	81	8	戸代秋祭り 10月スポーツの日前の日曜 (10月10日) 楠木明神	宮窪町戸代地区の楠木明神で行う秋祭り。現在は獅子舞は行わず、御神輿が境内を練り、御神輿に御神酒を供え、家内息災等を祈る。	B
	81	17	えびす祭り 旧2月1日、7月の第2日曜、 8月の第3日曜、 10月秋祭りの翌日 (旧2月1日、旧5月5日、 旧8月15日、旧9月10日) 美保神社	宮窪町宮窪の美保神社で行うえびす祭り。漁業者が漁業の神様に豊漁を祈る。現在は、操業を休みとする日に定め、祭り行事は実施していない。	B
	81	17	弁財天祭り 8月第1日曜 鯛崎島	宮窪町の能島城跡の鯛崎島の祠に弁財天がまつられている。地元の漁協が祠を管理し、弁財天祭りを行っている。現在は、2018年の台風被害により登上出来ないため鯛崎島での法要は行わず、流灌頂といって、船上で法要し海に酒をまいて豊漁祈願のみ行っている。	B
	81	8	鵜島秋祭り 10月スポーツの日前の日曜 (10月10日) 宇佐八幡大神	宮窪町鵜島地区の宇佐八幡大神で行う秋祭り。現在は神事のみ行っている。	B
	81 82	27	亥の子さん (ごう輪さん) 旧暦10月の最初と 2番目の亥の日	地区ごとに、子どもたちは自治的にごう輪さんグループを作り、ごう輪さんをつくりは特別丈夫な縄を作って、御通夜の宿で輪に付けた。ごう輪さんは洗い清めて床の間に祭り、ごう輪さんの頭の輪に御神酒を注いで拜んだ。現在は少子化に伴い、ごう輪さんグループは減少し、行事内容も簡略化している。亥の子の晩、子どもたちは家々を廻って、囃子ながらごう輪さんをついた。囃子はグループごとに少し異なっている。囃子は「一に俵ふんまえて、二でにっこり笑うて、三で杯さしようて、四つ世の中ええように、五ついつものごとくなり、六つ無病息災に、七つ何事ないように、八つ屋敷を広げて、九つこの家を建て直し、十でとうとうおさまった、おさまった」。家々をつき終わると、浜の蛭子さんに集まり、「おうもんようて、よういやさ。おうもんようて、よういやさ。地すりでやつそれ、よういやさ」といいながらごう輪さんの鉢合わせをする。縄が切れるか、ごう輪さんが割れるかすると勝負がついた。現在は行っていない。	B
	82	8	早川秋祭り 10月スポーツの日前の日曜 (10月10日～11日) 真宮明神	宮窪町早川の真宮明神で行う秋祭り。現在は神事のみ行っている。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	82	8	余所国秋祭り 10月スポーツの日前の日曜(10月10日～11日) 両社神社	宮窪町余所国の両社明神で行う秋祭り。現在は神事のみ行っている。	B
	83	35	宮島さん(管弦祭) 旧6月17日 有津海岸	有津ではこの時に子どもたちが小屋をつくる。小屋ができると、子どもたちはその小屋に集まって遊び、一定期間、この小屋を中心に共同生活をしたものである。子供小屋は、宮島さんの日の夜、火を放って焼かれる。	B
	83	10	くんち相撲(くんち節句) 9月9日 各組小宮土俵	9月に入ると各組小宮前につくられた土俵で夜、練習が始まる。9日、奉納相撲が行われ、勝者には御幣が授けられる。10日、各組対抗戦がある。	B
	83	8	秋祭り 10月スポーツの日前の土日 奥坂神社(有津獅子連)	中学生と小学生がかく子供神輿6組6台、小学生5名～7名の巫女が舞う神楽、小学生2名が演じる獅子舞が出る。	B
	83	27	亥の子 11月第2土曜 (10月の亥の日) 有津神社	6組で亥の子をつく。	B
	84	6・25	弓放し 2月11日(旧1月11日) 喜多浦八幡大神神社	五穀豊穡、悪霊退散を祈願して行われる行事。喜多浦八幡神社の境内で、その年の当家組の人たちが恵方に向かって的を作る。的はこも2枚を吊り上げ、その上に紙を貼り、逆さ鬼を書いて立てられる。神事には、当家組、部落総代などが参列する。神事後、当組から選ばれた6人の若者が的を射る。このとき部落の人たちは金封にお金を入れて、こもの目にはさんで射てもらい厄逃れをする。最後に道化が天に向かって6本の矢を射上げ、その矢は神社の森などに落ちるが、拾って帰って祀るとその年の運が良いと言われていた。〔詳細調査報告44参照〕	B
	84	8	春市 旧3月20日～22日の夜 喜多浦八幡大神神社	4月20日に近い土日に行われる春季大祭で、「春市」と呼ばれ、境内に常設されている芝居小屋で芝居が奉納される。令和5年は4月21日(金)宵宮祭、22日(土)演芸大会。人形劇の上演や、バンド演奏、境内ではキッチンカーや屋台が出て、老若男女が集い、賑わっていた。芝居小屋は舞台と花道が備えられ、嘉永3年(1850)の建造とされる。観覧席は、舞台の前に柱を建て大きなテントが張られ地面にゴザをひいて升席としたり、升席の後方にパイプ椅子を設置していた。「北浦は春市で三日三晩御馳走を作り、お金がたまらん。」と言われ、娯楽の少ない時代には、村内外の皆が楽しみにしていた。北浦に嫁に行くなど親戚がいると春市に呼ばれるからうらやましがられたという。北浦出身で出稼ぎに行っている者も、旧正月と喜多浦八幡神社の春市と盆にはたいがい帰ってきていた。	B
	85	29	春大師 旧3月21日	盛地区内では、4か所のお大師堂めぐり(西国33か寺)が行われる。井口地区では、各組に1か所ほどのお大師堂めぐり(大三島88か寺)が行われる。	B
	85	15	虫送り 田植え後 地区内	作物についた害虫を追い払い、豊作であれと神に祈り、害虫を村内から駆除する行事。虫害を悪霊が引き起こすと考え、それを追放するための行事。田植えが終わった後、定められた朝の決まった時刻に部落総代・組長・神主が総代場に集合し、総代場→大池の庚神様路(おおいけのこうじんさまみち)→三角(さんかど)→於合(おだんに)→中津原(なかつばら)→為平(ためひら)→神社下の海岸を回り、その途中で稲の害虫を採集して、生きたまま袋に入れ、大工さんに作ってもらった舟にのせる。神主にお祓いをしてもらって海に流し、後、神社へ参拝しご祈祷をあげ、今年の豊作を祈り、お神酒をいただいて終える。	B
	85	8	道づくり 旧8月10日に近い日曜	祭り前に実施する地区の奉仕作業。	A
	85	19	舟流し・精霊流し 8月15日 西光寺・盛港	舟流しは産業廃棄にあたるとして現在は行っていない。精霊流しは、盛港で午後8時より灯ろうをながす。	B
85	28	巳午(巳正月) 旧年明けの巳午に近い日曜 西光寺	亡くなった方々のお正月(巳正月)。西光寺に集まり供養。墓の前にしめかざりをし、餅を供える。	A	

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	85・86	2	井田八幡神社の秋祭り 旧8月14日～15日近くの土日 井田八幡神社	神輿、5地区の子供獅子(きらびやかな衣装に身を包み、独特な化粧)、宮だんじり(上条地区)、ふとんだんじり(北条地区)に踊り子を従えて地域内を練り歩き、宮入の夜には「いなか芝居」もあり、賑やかな祭りであった。「だんじり」の運行は定かではないが130～140年ほど前から行われていたとされている。当初、壮年が中心となって運行していたが、昭和30年代に入り、休止状態に陥る。昭和45年、青年団により再興され、以来、30年にわたり続けられたが、団員不足となり解散した。地域の愛好者・OBたちにより平成12年より保存会(愛好会)を結成し運営を引き継いでいる。	B
	86	5	甘藷地蔵祭 (いもじぞうまつり) 旧8月1日 向雲寺・瀬戸芋地藏堂	正徳2年(1712)、初めて甘藷を大三島の地に導入した下見吉十郎(芋地藏)の命日にあたる旧暦8月1日に、今治市上浦町瀬戸にある向雲寺と瀬戸芋地藏堂で行われる祭り。町内の2か寺の僧侶及び町内の人々、小中学生、幼児などが参加し、向雲寺での法要のあと、芋地藏堂までの稚児行列が行われる。	C
	86	19	施餓鬼(ガキ仏の盆) 旧7月13日 向雲寺	先祖と一緒に餓鬼供養も行うことで、徳が積めると考えられている。	A
	86	8	注連おろし 旧8月1日付近	祭りの2週間前に、注連縄を張って神霊を迎える行事。	B
	86	27	亥の子 旧10月の亥の日付近	無病と子孫繁栄等を祈願する行事。日本酒を持って、地区の家々を回り、音頭をとりながら五輪石をつく。現在は愛護班の活動として行っているところが多い。コロナの影響で、甘崎地区では日本酒を紙コップに入れて配り、瀬戸地区では、日本酒をふるまうことは中止した。	B
	87	18	生土祭(しょうどさい) 1月7日 大山祇神社	1月7日、午後7時から七草の節句の日に行われる大山祇神社の特殊神事のひとつ。赤土拝載神事・生土祭・福木神事と一連の祭りになっており、すべての生命を守護する大山積大神の御恩恵を年初に奉謝する祭典である。古くから赤土には霊力が宿ると信じられ、神前にかつての神体山である「安神山」より拝載した赤土を供え、その霊力を授かるために赤土の付着した神印を神職・巫女の額に押す仕草を繰り返した後、榊の枝を両手に持ち打ち鳴らし、楽を奏でる。これは神様と人とが心を一つに神遊びをしたとされる神事である。その後、「真那比木(まなびぎ)」と呼ばれる榊の枝を円柱状にしたものが拝殿前の中庭に神職より投げ入れられる。この「福木」を手に入れようと参集者が早い者勝ちで奪い合う。福木を手にした者は一年の福を得られるとされ、神事が行われる。	A
	87	8	大山祇神社例大祭 旧4月22日 大山祇神社	養老3年(719)4月22日に大山祇神社が現在の地に移され、遷座祭が行われた日を起源とする祭礼である。旧暦4月22日の朝、正装した神職や氏子らが行列になり拝殿に向かって行き、神事が行われる皇室の弥栄、国家の安泰、国民の平和、氏子崇敬者・地域社会の繁栄を祈る祭典。特色は「三島市」と呼ばれる大市にあり、境内には多くの露店が並び、大三島内外より多くの祈願参拝の人々が訪れる。	A
	87	10・17	大山祇神社御田植祭 旧5月5日 大山祇神社	その年の水稻豊作を、農神大山積神に祈願する。午後0時30分より、宮司をはじめ各奉仕者が衣服を整え社務所前庭に整列する。宮司を先頭として祓殿に進み、拝殿にて神事を行い御分霊を3基の神輿にうつす。本殿から斎田前の御棧敷敷まで、大鉦・小鉦・毛槍を先頭に神輿3基を置き、宮司・神職、奏楽員、巫女、早乙女・総代等が参列する。一人角力は、目に見えない稲の精霊と一力山が取組み、2勝1敗にて稲の精霊勝ちにより、その年の豊作が決まる。(県)〔詳細調査報告21参照〕	A
	87	2・9	大山祇神社産須奈祭 (秋祭り) 旧8月22日に近い土日 大山祇神社	皇室の弥栄、国家の安泰、国民の平安、五穀豊穰感謝、海上安全、氏子崇敬者・地域社会の繁栄を祈る2日間に亘る祭典。昭和30年頃までは、弓削・岩城・関前・伯方島の島しょ部各地も参加していたが、今は島内のみとなっている。祭りの中心は継獅子の奉納で、それにだんじり3台、子供だんじり、子供神輿などが伴う。獅子頭・獅子舞連中は、大祭当日早朝、境内で初舞を披露し、氏子区域の家々を舞いながら巡っていく。大祭当日は早朝から賑わいが増し、島内全域の毛槍、弓、獅子舞等奉納が順次行われ、また、だんじりも参集し、大勢の参拝客がある。一般にお旅と云われる渡御の出御は午後1時で、順路は古来から上条地区、下条地区、台浜、山田地区を経て台三島神社で祭礼が執り行われる。帰路は台新田地区、宮浦港お旅所で祭礼、新地地区を経て大山祇神社と約4km余り、4時間の行程で古来よりの順路が今も守られている。午後10時頃より宮入。	A

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	87	8	台の秋祭り 旧 8 月 21 日～ 22 日に近い土日 三島神社	旧暦8月21日早朝の宮出しは三島神社で行われる。三島神社で神事が行われ、獅子舞の奉納が終わると、伊勢節で大御輿、子供御輿、獅子連中が添荒神社の御渡所へ行き、獅子舞を奉納。添荒神社での奉納が終わると途中、昼食・休憩しながら練り歩きが始まる。旧暦8月21日午後8時頃になると一行は添荒神社の御渡所へ行き、獅子舞の奉納をし、1日目の終りとなる。戦後は大勢の若者たちがおり、盛大であった秋祭りも現在は細々と受け継がれている。大御輿もかき手が12名ほどで、子供御輿も子どもの減少に伴い、共に台車に積んでおともをする。獅子舞も消防団と青年で構成し、子供役や中老役は廃止され、役付は最小限で行っている。また、台地区全戸を回っていた土居まわりも廃止となった。	B
	87	17	大山祇神社抜穂祭 旧 9 月 9 日 大山祇神社	旧暦5月5日に行われた御田植祭で植えてあった、稲の初穂を刈り取る豊作感謝の祭礼。御田植祭の時と同様に午後0時30分より、宮司をはじめ各奉仕者が衣服を整え社務所前庭に整列する。宮司を先頭として祓殿に進み、拜殿にて神事を行い、御分霊を3基の神輿にうつす。本殿から齋田前の御棧敷殿まで大鉾・小鉾・毛槍を先頭に神輿3基・神職・抜穂乙女・奉仕者等が行列をなし齋田祭場に神幸する。齋田において神事を行い、抜穂乙女16名が、白衣の装束に赤い袴をかけ、紅手甲脚絆、頭に紅白ののし紙をつけた装いで田に入り、齋田で初穂を刈り取り、神前に供える。この時、一人角力が奉納される。相撲の行われる齋場には正面に神輿3基を置き、宮司・神職、奏楽員、巫女、抜穂乙女、総代等が参列する。一人角力は、目に見えない稲の精霊と一力山が取組み、2勝1敗にて稲の精霊勝ちにより、その年も豊作が決まる。その間、籠笛や、ひちりきの奏楽があり、続いて参列者の玉串拝礼ののち神輿還幸して終了となる。(県)〔詳細調査報告21参照〕	A
	87	27	亥の子祭 旧 10 月の亥の日 台地区全域	町内9部落で行われている。夕刻から子どもたちが三島神社の境内に行き、石亥の子をついた後、2班に分かれて各家庭をまわって亥の子音頭を歌い、ゴウリンサンと呼ぶ石亥の子で地面をついて無病息災・五穀豊穡を願う。つき終わると祝儀を受け、お餅を配る。お供提灯は今でも伝承され、道中を照らしている。ゴウリンサンというのは降臨、つまり神の宿る石の意味である。石亥の子のほかには野々江地区では藁を束にして地面を叩く藁亥の子があるが、古くはやはり石亥の子であったという。各家庭をまわり終わると集会所に集まり、亥の子をつく。最後は集会所で慰労会をして終わる。	A
	88	18	オミトビラキ(御美戸開) 旧 1 月 吉日 明日八幡神社拜殿	祭礼の当日、午前中は準備が行われ、舞太夫が宮司の家に集まり、神札、御幣とボンデンを作る。神札・御幣は明日地区全戸分、ボンデンは1本作る。神札と供物は神前に供える。午後1時から御美戸開が始まる。流れとしては、①修祓②神饌の献上③神主が本殿の扉を開ける④祝詞の奏上⑤御初穂料を供える⑥御神託を舞う(露はらい)⑦舞太夫は神札と供物を扇で受け、氏子の願主に神札と供物を渡す。舞太夫の衣装は、白衣、白袴に陣羽織、白足袋、頭には鳥かぶとを着け、顔には鬼の面を着ける。手にはボンデンと扇を持つ。舞いは大太鼓1つで、初めから終わりまで同じ調子で叩く。氏子たちに神札と供物を渡し終わる午後4時頃、神楽が終了する。明日神楽(あけびかぐら)には10年に一度行われる大神楽と、毎年行われる小神楽があったが、現在は小神楽のみを行っている。小神楽は「御神託(ごしんたく)」「岩戸開き」「神迎(かみむかい)」の3曲がある。現在は御神託のみが八幡神社の拜殿で行われ、五穀豊穡と氏子安全を願う。	B
	88	1・18	肥海のとんど祭 2 月 肥海地区集会所・肥海地区広場	小正月に大三島の各地区で行われている行事。中でも特徴があるのは肥海のとんどで、神輿のようにつく。肥海地区では現在2月に行われている。午前中に飾り作りやお札を集め、やぐらを完成させる。肥海のとんどは四角である。まず木で四角に組み、心木を立て、2面は藁を竹で押さえ、12段にこしらえ、上部は円く作り、これに竹の輪が3段に結ばれ、橙を輪切りにしたのが通してある。最上の所に、大竹を割って大きな扇子を作り、1面には太陽にかたどって日の丸、1面には三日月を書く。扇子の前には松・梅を飾り、竹の輪には、子どもの手芸品や書きぞめを飾る。完成したやぐらは神主のご祈祷を受け、1km先の広場まで引いて行き、お焚き上げをする。その時に、各家庭から持ち寄った連縄飾り、お札などの縁起物を一緒にお焚き上げる。参加者にはぜんざいをふるまい、1年間の災いを払い、家内安全、無病息災、子孫繁栄を願う。一時は止まっていた行事であるが、老人クラブ・地区総代・愛護班などの協力により復活した。	E

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	88	8・30	肥海の秋祭り 旧8月14日～15日に 一番近い土日 肥海八幡神社及び各戸	獅子舞・太鼓・銅拍子・笛吹きなどが出る。消防団や消防団OBが主体となり、獅子止めが小学生高学年、奴は中学生である。頭屋は横注連縄、斎竹、飾りつけなど準備をする。獅子舞は祭りの当日早朝に氏神で祈祷して宮出し後、2日間で地区総代・氏子総代・寺総代、1番組から10番組までの組長宅で組内全戸を回る。その時お洗米の入った神札を渡し、花をもらう。夜9時頃に宮入を済ませて祭りが終わる。かつては3日間の祭りであったが、昭和50年代頃から若者の減少や不況により2日間に短縮した。その後、青年団の解散や消防団員の削減などがあったが、平成2年には「簡素化してでも祭りだけは残したい」という希望により、祭は1日だけ行うことになった。現在は移住者の協力もあり、再び2日間行われている。	B
	88	3・6・8	大見の秋祭り 旧8月15日に近い日曜 大見八幡神社	祭の当日、神社において神事を行い、獅子舞が奉納され、頭屋である集会所に向かう。頭屋ではオハケの前で日の出(東方)に向かって神事が行われる。オハケとは神霊奉斎のための一種の御幣のことで、頭屋神事として奉斎される頭屋の標示物である。その後獅子舞を奉納。獅子舞は二人立ち獅子1頭による舞いで、明日八幡神社の獅子舞が伝えられたもの。芋を掘る姿を表現した舞いで、通称：唄獅子といわれ、唄役が太鼓・笛・手拍子にあわせ唄い、それにつれて獅子を舞う。現在は唄役はなく、録音されたものを流している。以前は旧暦8月1日にシメオロシを行い、11日はオハケオロシを行う。子供御輿は小学校4年から6年生までの男子に限られ、女子は一切参加できないことになっていた。次第に獅子舞と子供御輿いずれも要員不足となり、神輿は小中学校生の男女全員参加しても要員不足のため、現在は神事のみになっている。頭家においても昔はすべて個人の家であったが、地区の集会所となり、頭屋から神社に供物を入れた器を乙女が頭上に乗せて運んでいくオゴクカベリも、今は供物を入れた器を頭屋組の大人が手で持ち神社まで運んでいる。	B
	88	8	明日の秋祭り 旧8月14日～15日に 近い土日 明日八幡神社	地区には5つの組があり、各組別に2対の幟を持ち、所定の場所に13日の夕刻、組員総出で幟を立てる。祭り1日目の朝、明日八幡神社拝殿に全員が上がり神職による神事が行われる。そのあと境内に出て獅子を3切舞う。獅子は2人立ちの獅子舞1頭による舞いで雌獅子である。芋を掘る姿を表現した温和な舞いで、獅子の周りを日吉丸は烏帽子に天狗の面をつけ弓矢を持ち、お多福は万頭花笠をつけボンデンと扇子を持ち、猿は烏帽子をつけササラを持ってユーモラスな所作を演じる。戸別舞では、般若のかついで御明神様が来て、戸主がおぼんにのせた御初穂を出す。太夫から御供米を受け、その後から獅子が来て舞う。地区の中央を流れる明日本川を境にして2つに分け、14日と15日に隔年交代で各家庭を舞うことになっている。夕方には神社に向かい、その時、神社階段下の鳥居前で3切舞い、1日目は終わる。2日目の朝8時頃、神社拝殿横で3切の獅子舞を奉納。それから再び戸別舞が始まる。戸別舞が終わると神社に向かい、午後9時頃、神社階段下の鳥居前で12切(交代しながら2時間ほど)舞い、午後11時頃に宮入をして終了する。	B
	89	6・8・30	野々江の秋祭り 旧8月14日～15日に 近い土日 (旧8月14日～16日) 野々江八幡神社	頭屋組は祭礼の準備を行うことになっていて、神社やお旅所への幟の準備をする。祭礼当日は、合図である寄せ太鼓が早朝5時に行われる。宮出しでは、獅子舞の前に子どもの役者による踊りが行われる。子どもの役付け者は男11名に決まっているが、男の数が不足が生じた場合は女子でも役付になれるよう改定された。獅子は雄で、獅子舞の動きが激しいため、乱獅子と呼ばれている。2人立ちの獅子舞で、以前は12の舞があったが、現在では「山さがし」と「芋ほり」の2つになっている。宮出し道中は太鼓の音とともに社銘旗、毛槍・獅子・太鼓・小神輿・大人神輿・神主、役員と行列が進む。祭礼日に獅子舞を行う家は前もって奴の扇子踊りによって祓い浄められる。各組の頭屋組では獅子舞中「ドンデコドン」が行われる。「ドンデコドン」が行われる時は獅子止めの出番がある。宮入りはかがり火によって行列を組み神社に向かうが、現在は提灯による宮入りである。神社入口の橋の上で獅子舞の奉納後、神輿が神社本殿拜殿を3周してから宮入の神事が行われて祭りは終わる。	B
	89	30	口総の秋祭り 旧8月15日～16日に 近い土曜 口総八幡大神社	旧暦8月1日に頭屋組によって鳥居や神社の前にしめ縄を作って張りかえる。祭りの当日午前10時頃、役付の者は神社に集合。神事が終了すると11時頃、太鼓の合図で宮出しをする。かつては神輿が神社を出るときに子供奴による奴踊りが行われた。法被に鉢巻姿の10名の小学生による踊り手が、唄い手の口説きに合わせ、毛槍・扇、刀などを持ちかえて、毛槍踊り、扇踊り、刀踊りなどを踊る。12種類の踊りがあった。今は子ども不足のため行われていない。祭は塩振りを先頭に行列が進む。途中、六本橋で獅子、御神輿が止まり、獅子舞、神輿を回して賑わう。行列が地区を回るとき、お鏡餅、米、御神楽と書いてお金を入れた包みを重箱に入れ、十数軒が御神輿を迎える。宮入り前には六本橋で獅子舞、神輿を回して最後の盛り上がり。終わるとホラ貝、鐘の合図で提灯を点灯してお宮に向かう。宮入は神社のまわりを3回まわり神事があって祭りは終わる。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	90	6・25	宗方の弓祈禱 旧1月11日近くの日曜 宗方八幡神社	旧正月の行事の一つで、五穀豊穰・疫病退散を祈禱する。以前は射手の座位を決める役割の矢太夫がいるのが特色であったが、今は矢太夫は存在しない。現在の祭りの様子は、まず射手(頭屋組)が神社で神事を行い、お祓いをすませる。式の順序は、①神迎えの式、祝詞、修祓、的の前に八ツ足をおき、お供え物と並べて祭場をつくり、神をお迎えする。②玉串奉奠③昇天行事。以前はその後、神事が終わると矢太夫の舞が始まり、矢太夫と神主のやり取りがあったが、今は行っていない。④神主が東西南北の空と大的に向かって矢を射る。「四方固め」ともいう。⑤射手の三度矢(サンドヤ)…頭屋組の射手6人が紙のしを口端にくわえ、順番に無言で矢を射る。各自矢二本を3人ずつ交替で3回繰り返す。⑥千八筋(センヤスジ)…地域内に祭ってあった”外の荒神””みとだの荒神””肥島の荒神”と唱えながら交替で矢を射る。これが現在の弓祈禱の一連の流れである。後は参加者が大的に向かって矢を射って遊び、当たると祝儀や品物を出して楽しんでいる。	B
	90	35	十七夜のまつり(権伝馬) 8月14日 (旧6月17日～18日) 宗方八幡神社・宗方漁港	大三島町宗方の十七夜祭は「宗方八幡神社に合祀されている厳島神社のお祭り」と言われている。神社において式典をすませ神主、役付が神社を出発し、行列はお旅所に向かう。その頃になると海上では3艘の権伝馬(赤・青・桃色で識別)が漕ぎ比べを開始する。権伝馬の乗組員は1艘当たり17名で、内訳は責任者(昨年のオモガイ)1名、オモガイ(主権)船の舵取りで重要な役割)1名、太鼓1名、カコ(水主)(左右6名ずつ)12名、ボンデン(梵天)(5～6歳の男子)1名、ケンガイ(剣権)(小学校高学年の男子)1名、この他に太鼓、カコの交代要員が若干名である。行列がお旅所に到着するとそこで神事が行われ、海上渡御の準備が終わる。3艘の権伝馬競争が終わると、権伝馬が順番に石段に集まってくる。3艘が船縁を並べると輿丁(カイチョウ)とサイキョウ(祭り全般について采配を振るう人)が乗り込む。以前は奴のホコ(矛持ち)が2人乗っていたが、人員不足で今はいない。権伝馬ではボンデンとケンガイが太鼓に合わせてゆつくりと舞う。権伝馬の乗組員は”オーラーエイヤー、エイヤーガエイ、ホラ、ヨイヤサノサッサイ”と掛け声をかける。海上をゆつくり3回転する。以前はその後、オメン(御召船)に移り、神事、太鼓・笛、獅子舞、奴の踊りなどが繰り広げられていたが、今は御召船もなく、人員不足で行っていない。その日の夜は肥島への御旅の神事があった。肥島はかつて厳島神社の末社(沖津宮)があり、そこへのお旅であり、3艘の権伝馬が行くのであるが、今は行っていない。祭りは午前中に終わり、宮入りをする。	B
	90	8	芋地蔵祭 (いもじぞうさい) 8月14日(9月頃) 宗方集会所	宗方島民船乗り、渡辺九郎兵衛氏(享保5年4月5日没)が生前、当時薩摩藩主が海路参勤交代の途中、風波にあい、遭難しかけた船を助け、お礼に「さつまいも」を3個貰った。これがさつまいもの栽培の基となり、大三島の島民に恩恵を与えたことを感謝し、大正11年9月1日渡辺九郎兵衛氏の地蔵を安置したことに由来し、年1回の法会を開く行事である。祭の当日は、まず薬師堂に安置してある芋地蔵を宗方集会所まで歩いて持って行き、地蔵の清掃をする。渡辺九郎兵衛氏の子孫の方が家系図を持ってきて説明してくれる。その後、皆で芋菓子を食べ、芋地蔵祭は終わる。	B
	90	6・8	浦戸の秋祭り 旧8月14日に近い土曜 諸山積大明神社	浦戸地区は、東上・東下・西上・西下で順番に頭屋を受け持つ。祭礼の役付は、基本的には現在も受け継がれているが、年々島を離れる人が相次ぐようになり、それと共に祭りの主役も徐々に減少していつている。子供御輿も姿を消し、壮年組の大人神輿もかき手不足により姿を消し、現在は子供御輿を大人が台車に乗せ、お供をする。以前は宮入り前の頭屋組が「ハダカ御輿」として、池や道端に落とし、輿守をあわてさせ喜んでいたが、この楽しみも今や昔話となっている。祭礼1週間前に道そうじ、「しめ下ろし」を行い当組にのぼりをたてる。祭りの当日、諸山積大明神社において神事を行い、獅子舞を奉納後、宮出しをする。当組の正門をくぐり総代宅へ行き、神主の祈祷・獅子舞を奉納後、頭屋である集会所へ向かう。集会所で御祈祷・獅子舞が終わると、婦人会が準備していた料理で昼食をとる。その後、獅子舞だけは養護老人ホーム楠風園へ行き、獅子舞を奉納する。それが終わると再び神輿とともに宮入のため参道へと歩を進める。宮入りでは道中に提灯で飾る「大」の字の門をくぐり神社へと向かう。以前、提灯を飾るのは子どもたちの役目であったが、少子化により今では頭屋組で飾られている。神社につくと獅子舞、神事を行い、夕方には宮入となる。一時の派手さから次第に簡素化されているが、形は変わっても祭礼の心はいつまでも後世に受け継がれている。	B

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	90	6・8	宗方の秋祭り 旧8月14日～15日 に近い日曜 宗方八幡神社	頭屋組は旧暦8月1日頃に祭の支度を始める。これをシメオロシといって神社の鳥居に懸ける注連縄を緬い、頭屋縁側の軒先に笹のついた青竹を立て、注連縄を張る。祭の当日、神事後、宮出しの準備が整うと奴が並び、「今日も日はよし、日柄もよし、氏神様の宮出しじゃ、足手のさわりをいたすなよ、あじなところでふりだすな、ヤンガーテーロ」という声を合図に行列は石段に向かう。行列は途中で必ず休憩する場所が3か所ある。そこでは必ず太鼓を下ろし、奴の囃子と共に笛を吹き太鼓を叩く。集会所(頭屋)に到着するとしばらく神輿をかき、獅子・太鼓・笛などで舞った後、頭屋での神事を行い昼食に入る。夕方、7時頃から奴踊りと頭屋組の人たちによる”俄”が始まる。奴が踊りを始めると、見物人と奴の間で掛け合いが始まる。奴は猿1名と踊り子6名で、猿は行列の先頭を歩いて導き役を負っている。毛槍はその後に続き、矛は神輿の前後につく。踊りは扇子踊りと刀踊りがある。俄が終わると役付の食事に入り、宮入の1時間位前に頭屋組の人たちによって神輿一体が担がれ、宮入をする。各組ごとにお供提灯が道中の明かり役を務め、一行が神社に着くと神輿は本殿、拝殿の周りを3回まわり、拝殿中では昇天神事が行われ、奴踊りを奉納して終了する。	B
	91	6・25	岡村島弓祈禱 2月第3土曜 (旧正月11日) 姫子島神社境内	射手は祭りの10日前に当人(祭りの準備をする世話方)の代表の当頭と当脇(当頭の補佐)により、島内の宮浦、里浦の2集落から12人を選出、射手は大関組と射太郎組それぞれ6人ずつ12人を選出、以前は大関と射太郎は交互に行われていた。練習は祭り前夜まで、神社内の弓道場で深夜まで行っている。古くは巻藁宿(弓を練習する宿)を大関、射太郎がそれぞれ探し、巻藁宿で祭りまで練習を行っていた。祭り前夜、射手は祭り歌(伊勢節)を練習した後、日が変わると神社前の海で水垢離を取り身を清める。海から出て神社に帰る途中、もし女性に出会うと、再度水垢離を取りに海に浸かるという決まりがある。以前は巻藁宿に籠る日・射場見の日・葉師詣りの日・祭り当日に水垢離を取っていた。射手衆の家では、各自の家の門に注連縄を張り、二十五度目式が終わるまで桶に海水を汲み、道中、家まで笹の小枝で蔽い、我が子、我が夫の無事の務めを祈る。祭りの朝、巻藁宿(現在は弓道場)で袴に着替えて待っている射手衆を射場に迎える使い(公文場)が七度半の使いに来る(現在は3回程度で出る)。射場において神事が行われ、神官が射の神事、東西南北天頂に向けて矢を射る動作を行い悪魔祓いをし、鬼と書かれた直径6尺(約1.8m)的の矢を放した後、三度弓、二十五度弓の式、三度弓を加え10回の射を行い(現在は三度弓より5回)鬼的に矢が放された後二十五度目式に続き、綱掘りの(直径約5cm)、当屋の扇、金的、ナス、スイカ、魚等を形どった余興的、ツツ、射止めの扇、鼠的の順に的が掛けられ、射手が的に当たると「アタイリ、大関、高い山から谷底見ればよ、瓜やなすびの花盛りよ」と唄い囃しながら射手を担がれる。ツツは2本のうち1本(早矢)を放し、2本目(乙矢)を射手が弓を拝み上げた時に、担ぎ手から「当たりの大関」と囃しながら射手を担ぐ。射止めの扇は、大関が矢を1本持ち射場の中央に出て射る。この的は大関のみが射り、当たり外れ関係なく担ぐ。3枚の鼠的で終わる。終了奉告祭、縮太鼓に合わせ射手の衆は伊勢節を歌い、矢で弓を叩きながら神社へ参拝し、終了奉告を行った後、伊勢節を唄い、矢で弓を叩き拍子を取りながら村中をめぐる当屋へ向かう。	A
	91	8	秋季大祭(神輿祭り) 9月第4土曜(9月23日) 姫子島神社	秋の収穫を祈り神輿にご神体を乗せ集落を練り歩く。以前は舟に神輿を乗せ小大下島へ船渡御が行われていたが、現在は行われていない。宵宮祭にはあばれ獅子、巫女の舞が奉納される。宮出しの際、昭和42年まで小学校高学年による奴行列も行われていたが、生徒数の減により行われなくなった。集落内を渡御の途中、各集落の辻(集落と集落の境)に神輿を降し、神主あばれ獅子を披露。宮出しの際餅まきを行い、餅の中に「富くじ」を入れ、宮入の時にはその抽選を行い、祭りを盛り上げている。	C
	91	8	御開帳法要 30年に一度(60年に一度) 白石山観音堂(観音崎)	岡村島の南西に突き出した観音崎観音堂に祀られている救世観音菩薩像の御開帳法要が、60年に一度行われていた。救世観音菩薩像は、大同年間(806～809)に弘法大師が諸国行脚の際、当地に立ち寄り、急潮逆浪の難所といわれた関前灘の海上案護を祈願するため自らオノを振るって彫刻し岩間に安置したと伝えられる。その後延享2年、諸国巡礼の木喰海漚和尚が当地に足を止め観音堂を建立し、菩薩像も厨子に安置され保存されている。近年では昭和57年に観音堂修復に合わせ64年ぶりとなる御開帳法要が行われた。奉賛会の協議の結果、次の御開帳までの期間を30年とすることになり、平成24年10月に実施された。次の御開帳は令和24年の予定となる。	C

市町	地区	テーマ	行事名/行事日/場所/保存団体	概要	存続状態
今治市	91	8	初観音 2月18日 白石山観音堂(観音崎)	弘法大師が当地を訪れた際、牛ヶ崎(観音崎)の沖合(関前灘)の海上安護を祈願し、自ら彫刻し岬に安置したと伝わる観音像が納められた厨子を参拝し、家内安全、身体堅固を祈る。その昔は堂守がいて世話をしていたが、昭和57年観音堂の修復に合わせ行われた御開帳以降、善照寺が観音堂にまつわるお祭りの世話をするようになり、岡村の自治会の輪番制で奉仕するようになったが、現在では高齢化と人口減により、参拝者も少なく、祭りの継承も難しくなっている。	C
	91	8	千日詣り 旧7月10日 白石山観音堂(観音崎)	観音堂には救世観音菩薩像が安置されている。弘法大師が当地を訪れた際、牛ヶ崎(観音崎)の沖合(関前灘)の海上安護を祈願し、自ら彫刻し岬に安置したと伝わる観音像である。昔は夜10時頃より集まり、歌ったり踊ったりして一夜を過ごしたとされている。現在は昼間、観音堂へ参拝するだけである。この日参拝すると千日参拝したと同じ価値があると言いつたされている。昭和57年観音堂の修復に合わせ行われた御開帳以降、善照寺が観音堂にまつわるお祭りの世話をするようになり、岡村の自治会の輪番制で奉仕するようになったが、現在では高齢化と人口減により、参拝者も少なく、祭りの継承も難しくなっている。	C
	91	15	輪越し祭り 8月第1土曜 (旧6月末日) 姫子島神社	茅を束ねて作られた直径2m程の輪をくぐり、汚れを祓い清める。輪をくぐる時、和紙で作られた人形を枕の下に置いたり、息を吹きかけたりして厄を移した人形と一緒にくぐり身体健吾を祈る。平成30年まで、木野山神社祭、荒神山祭、胡神社祭、龍神社祭等の祭りも行われていたが、奉仕する自治会の高齢化と人口減に伴い、これまで行われてきたこれらの祭すべてを行うことが難しくなってきたため、輪越し祭りに合わせて祀ることとなった。	C
	92	6・25	大下島弓祈禱 2月第2土曜 (旧1月11日) 選果場	大下島には上ヶ城、浜城、北ノ谷の3つの集落があり、祭りは輪番制で受け継がれている。現在は簡素化され、その年の当番となる集落の組長が中心となり、くじ引きで当屋、世話人、射手頼み、幟立てなど祭りに関する仕事の分担を決めている。弓祭りは悪魔祓いと五穀豊穰、無病息災神事として、現在は2月第2土曜日に行われている。射手衆は8人で昔は全員未婚の男性であったが、人口減により現在はそうではなくなっている。祭り当日4時頃水垢離を取り身体を清めていたが、現在は簡略されている。射手衆は4人ずつ2組に分かれ、直径5尺(1.5m)の中心に鬼と書かれた的に向け、射場所を変えながら的に交代で射る。射終わると次に小的(綱掘り)を射る。その後は冬橙等の的が掛り、的に当たると「花」と言って宛名書きされた祝儀袋が貰っていた。	C
	92	6・8	早津佐神社の秋季大祭 (神輿祭り・チョウサ祭) 9月第2土曜 (旧8月15日) 早津佐神社	神輿祭りは秋の収穫を祈り行われる。当番は上ヶ城、浜城、北ノ谷の3つの集落が輪番制で行われており、当屋は当番の組中でくじ引きで決められていた。神社内に安置された神輿を白装束に身を包んだ男衆が木やりとともに威勢よく宮出しされ、天狗が青竹を持ち悪魔祓いをしながら神を御旅所へ案内。途中獅子舞も披露される。御旅所となる当屋の座敷に神輿を入れ、座敷で神輿が回される。日が西に傾き始めるころ、一般の担ぎ手も加わり祭り気運も高まりを見せる。神輿が暗闇に包まれ宮入が近づくと、宮入れを阻止しようとする中高校生との戦いが何度も繰返され、夜も更けるのを忘れ祭りに賑わいを見せる。	C